

ISSN 1343-4837

土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書 第29集

新改西谷遺跡 勝樂寺跡

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

土佐山田町教育委員会

新改西谷遺跡 勝樂寺跡

新改中部地区県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002. 3

土佐山田町教育委員会



新改西谷遺跡・勝樂寺



遺構完掘状況



石器

序 文

本県最大の穀倉地帯を誇る香長平野の東端に位置する土佐山田町は、物部川の悠久の流れに抱かれ、古くから稲作農業が盛んに行なわれてきました。しかし、近年の農業構造改善に伴い、農業経営は複雑化、多様化してきております。そうした状況のなか、本町におきましても土地改良事業や圃場整備事業が継続的に実施されております。

平成8年度から、新改中部地区において県営圃場整備が行なわれるようになり、当教育委員会では、事業に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を平成7年度より実施し、旧石器時代から近世に至る貴重な資料が得られています。このたび調査報告書として刊行することになりました本書が、今後の研究や、文化財保護思想の普及の一助となり、先人の残した歴史遺産を将来守り伝えていく契機となれば幸です。

最後になりましたが、発掘調査に際しては、高知県中央東耕地事務所、新改中部土地改良、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター、地元関係者の方々をはじめ、発掘調査から整理報告書に至るまでにご協力いただきました皆様に対し、厚く御礼申し上げます。

平成14年3月

土佐山田町教育委員委員会

教育長 原 初 恵

併言

1. 本書は、土佐山田町教育委員会が平成9年度に実施した新改中部地区県営圃場整備事業に伴う新改西谷遺跡・善勝寺跡発掘調査報告書である。
2. 新改西谷遺跡・善勝寺跡は、高知県香美郡土佐山田町新改字西谷621番地他に所在する。
3. 当該地の試掘調査は、平成9年9月1日から同年12月3日、発掘調査は、西谷遺跡・勝樂寺跡Ⅰ区、Ⅱ区を平成9年10月7日から平成10年1月22日、Ⅰ区調査面積600m²、Ⅱ区調査面積380m²である。引き続き資料整理・報告書作成を平成12年度から平成13年度にかけて行った。
4. 調査体制は以下の通りである。

調査主体 土佐山田町教育委員会

調査事務 土佐山田町教育委員会

平成9年度

教育長 中山熊義

調査事務 中山泰弘

調査担当 中山泰弘

5. 発掘調査にあたっては、地元新改地区の方々、土佐山田町文化財保護審議会、新改中部土地改良、高知県中央東耕地事務所、高知県教育委員会、(財)高知県文化財団高知県立埋蔵文化財センターの協力を得た。また、現場発掘調査・遺物整理・図面作成作業にあたって、下記の方々の協力を得た。記して感謝の意を表したい。

現場作業員 伊藤 仁、大塚俊明、高橋弘喜、田村香代子、佐々木龍男、竹崎芳子、山本花子、山下厚子、井上郁雄、山崎致子、山本冴子、小松一仁、池 宜弘、吉川 競、中西糸江、坂田千代、藤村清子、井上静江

整理作業員 伊藤 仁、中村千代、岡林 光、竹崎寛将、井上博恵、高橋加奈、研川英征、宗石祥一、風間俊秀(高知工科大学学生)、山口 正(高知工科大学学生)

6. 本書の執筆は、編集は中山が行なった。また、旧石器時代～弥生時代の石器群については高知県埋蔵文化財センター・松村博信氏、山崎真治氏(東京大学大学院)の協力を得た。

7. 新改西谷遺跡・善勝寺跡の調査、整理作業では、森田直宏(高知県埋蔵文化財センター班長)、松田和彦(高知県教育委員会)・松村博信(高知県埋蔵文化財センター)を始め数多くの方々から、助言、御教示をいただいた。併せて深く謝意を表したい。順不同、敬称略

8. 出土遺物及び調査資料については、土佐山田町教育委員会が保管している。尚、遺物についての注記は、「97-2YSN」を使用する。

9. 遺構の名称については、SB(孤立柱建物)、ST(竪穴状遺構)、SK(土壙)、SD(溝状遺構)、SE(井戸)、SX(性格不明土壙)、P(柱穴又はピット)を使用する。

目 次

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境	1
2. 歴史的環境	3

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過	6
2. 調査の方法	6

第Ⅲ章 遺構と遺物

1. I 区調査成果	
(1) (2) 土坑・ピット	8
(3) 包含層出土遺物	8

2. II 区調査成果	
(1) 包含層出土遺物	17

第Ⅳ章 総括

第1節 調査成果	32
参考資料1	33

挿図目次

図1 土佐山田町位置図	2
図2 周辺遺跡分布図表	4
図3 周辺地形図	6
図4 発掘調査位置図	7
図5 I 区遺構平面図	9
図6 I 区南壁セクション図	11
図7 I 区 P 4 2 ・ S X 3 遺構平・断面図	13
図8 II 区遺構平面図	15
図9 II 区北壁セクション図	17
図10 勝樂寺跡出土遺物①	20
図11 勝樂寺跡出土遺物②	21
図12 勝樂寺跡出土遺物③	22
図13 高知県旧石器時代遺跡位置図及び一覧表	24
図14 西谷遺跡出土遺物①	27
図15 西谷遺跡出土遺物②	28
図16 西谷遺跡出土遺物③	29
図17 西谷遺跡出土遺物④	30
図18 西谷遺跡出土遺物⑤	31

写真図版

巻頭カラー1 遺跡周辺全景

巻頭カラー2 遺構完掘状況(勝樂寺跡)・石器

勝樂寺跡図版

- PL1 遺跡全景、G1完掘状況(東より)、G2完掘状況(東より)、G3完掘状況(東より)、I区遺構検出状況(北西より)、I区遺構検出状況(北西より)、I区遺構検出状況(西より)、I区遺構検出状況(北西より)
- PL2 I区遺構完掘状況(北西より)、I区遺構完掘状況(北西より)、I区遺構完掘状況(北西より)、I区南壁セクション、土坑1遺物出土状況、土坑1完掘状況、P42出土石製品遺物出土状況
- PL3 土坑2発掘状況、II区調査区遺構完掘状況(西より)、II区調査区遺構完掘状況(東より)、II区東壁セクション、II区遺構完掘状況(東より)、II区遺構完掘状況(南より)、II区トレンチ(南より)、II区トレンチ内土坑断面(西より)
- PL4 出土遺物(土師器・土師質土器)
- PL5 出土遺物(土師質土器・瓦器・瓦質土器・備前焼)
- PL6 出土遺物(白磁・青磁・染付・瀬戸焼)
- PL7 出土遺物(土師質土器・青磁・布目瓦・尾戸焼・鉄器・鉄鋒・炉壁)
- PL8 出土遺物(石製品・小石)

西谷遺跡図版

- PL1 遺跡全景、I区遺構検出状況(北西より)、I区遺構完掘状況(北西より)、I区南壁セクション、II区発掘状況(西より)、II区発掘状況(東より)、II区遺構完掘状況
- PL2 出土遺物(石器)
- PL3 出土遺物(石器)
- PL4 出土遺物(石器)
- PL5 出土遺物(石器)
- PL6 出土遺物(石器)
- PL7 出土遺物(石器)
- PL8 出土遺物(石器)
- PL9 出土遺物(石器)
- PL10 出土遺物(石器)
- PL11 出土遺物(石器)

第Ⅰ章 遺跡の位置と地理的・歴史的環境

1. 地理的環境

土佐山田町は、高知県の中央東寄りに位置し、県下第3位の川である物部川の中流域に位置する。物部川により形成された沖積平野に県下最大の穀倉地帯である高知平野の北端に位置し、物部川の洪積台地及び四国山地の一部を含む。

この物部川は、県北東部の香美郡物部村、剣山山系の白髪山(1,770m)の東斜面に源流を発し、高知平野東部の同郡吉川村で土佐湾に注ぐ。上・中流域は仏像構造線に沿って直線的に西南西流しており、流路に沿った上流へのルートは古来阿波國への最短距離として知られている。物部川に沿う山間部には発達した河岸段丘が発達し^①、土佐山田町で流路を南に変え南流する。土佐山田町神母の木付近において平野部に流入し、肥沃な高知平野を縱断する。

高知平野東部を成す香長平野は不整形の扇状地で物部川両岸には鏡野^②、山田野^③と言われる古期扇状地の砂礫層から成る洪積台地を形成している。この台地は長岡台地と称される。長岡台地は、香長平野の北部を土佐山田町から南国市にまたがり、北東から南西に約5km連なる。洪積世中期以降に形成された比較的連続性に富んだ砂礫台地で隆起性扇状地である。標高は扇頂部に近い土佐山田町付近では約50mに達し南西に緩やかに傾斜し、扇端部の南国市後免町付近では15m～10mである。台地面の北西側は国分川流域に扇状地性低地、南東側は物部川下流域の扇状地性低地に対して段丘面を持って接している。台地は河床から5m内外の標高を持ち、台地の間に新期扇状地が広がり、北端部は国分川の浸食により断崖を形成する。洪積台地には旧石器時代の遺跡は見られていないが物部川河岸段丘両岸の山麓部^④、国分川水系である砥川の発生する山間部の山麓部^⑤で確認されている。また縄文時代の遺跡も旧石器時代の遺跡とほぼ同じ位置に所在する^⑥。新期扇状地から沖積平野にかけての大地には県下最大の遺跡群、田村遺跡群(弥生時代～近世)^⑦を始め大鷲遺跡(弥生時代)^⑧が分布する。また、条理制地割の遺構が広く認められるが、旧物部川き活性氾濫をたびたび繰り返しており、条理制地割りの乱れた地域も多く、旧流路も數本認められる。

土佐山田町の市街地が乗っている扇頂部分付近は周囲に比べて高位な面となり、南部に一段低い下位面があり、二段の段丘面となっている。中央部から末端部は低地性氾濫原に向かって緩やかに台地斜面が傾斜し、特に南西端は扇状地性低地の粗粒性沖積層に埋没しており湧水地帯となって小河川が流出し湿地帯を形成している。土壤は多湿黒ボク土壤であり、層の厚さは20cm～50cm以上で下層は灰色か灰褐色の場合が多い。台地面は自然の河流が無く江戸時代以前は開発が遅っていたが、江戸時代初期、土佐藩奉行野中兼山が物部川に山田堰を築き、灌漑水路を設けたことによって台地面にも導水が行なわれた。開発には、郷士が登用され、台地上には旧郷土屋敷が散在し、散村的景観を呈している。また、後免・土佐山田・野市の在郷町もこの時期に形成されたものである。灌漑用水により、かつては米の二期作が盛んであり、現在も高知平野の水田地帯の一部であるが、乾田であるため、古来、葉タバコ・野菜の栽培も盛んである。近年はビニールハウスの施設園芸も増加してきている。町域面積の70%を森林地帯で占め、林業が盛んで良材を多く産出する。工業は、地場産業の打刃物などがある。扇頂部の土佐山田町は物部川上流部と香長平野の接点に立地した谷口集落でもある。台地面はかつて開発の主体となつた郷土屋敷の点在する散村形態がみられ、現在もさの景観の名残がみられる。台地面の長輪(北東～南西方向)にはほぼ沿う方向でJR土讃本線及び国道195号線が直線的に通過している。東にある三宝山の中腹には国指定史跡及び天然記念物である龍河洞があり、県下でも有数の観光地となっている。

註

- (1)『南国市史』 上巻 南国市教育委員会 1979
- (2)『野市町史』 上巻 野市町教育委員会 1992

- (3)『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
- (4)佐野楠目山からは石核、剥片などが表面採集されている。
- (5)新改西谷遺跡からはナイフ型石器が多量に出土している。
- (6)新改舗敷田丸遺跡、林田シタノジ遺跡、太郎丸遺跡などがあげられる。
- (7)『田村遺跡群 高知空港拡張整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』第1分冊～第15分冊 1986 高知県教育委員会
- (8)註(1)と同じ

参考文献

- 『土佐山田町史』土佐山田町教育委員会 1979
 『角川 日本地名大辞典 39高知県』 角川書店 1986



図1 土佐山田町位置図

2. 歴史的環境

土佐山田町は、地理的に恵まれ、県下最大の穀倉地帯である香長平野の一画に位置することから原始以来、人々とした人の営みを台地に刻み付けている。また、南に隣接する南国市とともに県下屈指の遺跡密集地帯である。

土佐山田町の歴史は、北部山麓部の西谷遺跡^①の調査により旧石器時代後期に始まる。二次堆積遺物ではあるがチヤート製のナイフ型石器が多量に出土し、遺跡の立地など奥谷南遺跡^②と非常に似ている。続く、縄文時代では、新改川の河岸段丘に立地する屋舎田丸遺跡^③より早期押型文系土器が出土し、また新改川支流の砥川左岸の小山田遺跡^④からは、晩期の土壙4基と突宍文土器が出土し、北部山間部に所在する飼古屋岩陰遺跡^⑤からは早期押型文土器、厚手無紋の葛島式上器、中期の船元II式土器、後期の彦崎K II式土器とともに多量のサヌカイト製の石器が出土している。また、東部物部川左岸の段丘上、林田シタノチ遺跡^⑥が存在するが、ここでは、ピット状造構から後期初頭の中津式土器が出土している。

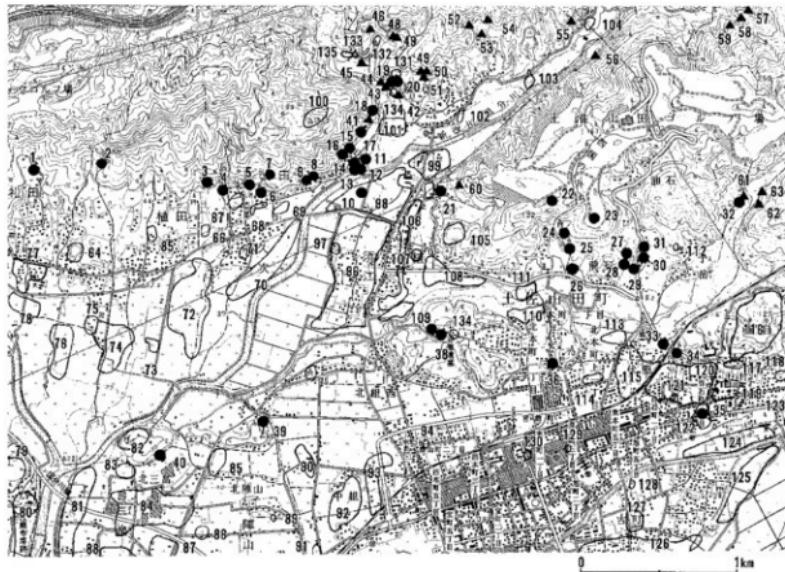
弥生時代では前期に属する遺跡の確認には至っておらず、今のところ中期後半に位置づけられる龍河洞洞穴遺跡^⑦が最古である。この遺跡は金山石灰岩でできた三宝山(322m)の中腹に開削した洞穴遺跡で、昭和8年に遺跡の部分が発見され、翌9年に天然記念物及び史跡として国指定を受けている。洞内の生活面は3室からなり、出土遺物は円線文の発達した龍河洞式土器をはじめ、鉄族、石鍤、有孔底角製品、貝輪、骨製管瓦、瑪瑙製勾玉等の装身具、貝類、獸骨類の自然遺物などである。また、龍河洞式土器に混在してただ一点、弥生時代後期末のヒビノキII式土器が出土している。龍河洞洞穴遺跡と同時期とみられる遺跡に、予岳遺跡^⑧、雪ヶ峰遺跡^⑨、影山遺跡^⑩がある。中期後半に属する遺跡は多く原遺跡^⑪、原南遺跡^⑫からは堅穴住居跡とともに環濠と思われる溝や掘建柱建物跡等集落を構成する遺構も発見されている。その北部台地上には、弥生時代後半～古墳時代初頭の土器群が出土したひびのき遺跡^⑬が存在する。これらの土器群はヒビノキI～ヒビノキIII式土器と命名され、高知県中央部以東の標準式土器とされていると同時に、同遺跡がその時期に集落遺跡として栄えたことを示している。弥生時代も後期となると遺跡数、規模の拡大がみられ、特に同遺跡に代表されるよる後期後半に属する遺跡の急増が認められる。隣接するひびのきサウジ遺跡^⑭では、弥生時代後期後半の堅穴住居跡が5棟検出されており、この内1棟は祭祀的意味を持つものと考えられている。また、物部川左岸には林田遺跡^⑮が存在する。ここからは堅穴住居跡5棟が検出され、土器と共に多量の鉄器が出土している。

古墳時代では、小円墳・横穴式石室・群集といった特徴を持つ後期古墳が存在し、山麓部を中心に知られている。中でも、ひびのき遺跡に近い伏原大塚古墳^⑯は、5世紀末から6世紀初頭に築造されたと考えられる。また、この古墳の周溝からは須恵器の円筒埴輪が出土している。この期の須恵器の窯跡は今のところ発見されていないが、当古墳の埴輪の存在を考えれば、出現期は少なくとも築造期と同時期まで遡ることは可能であろう。また、これらの遺跡を特徴づける遺跡として当町北部の新改地区とその周辺に所在する須江古窯跡群^⑰を挙げることができる奈良時代から平安時代にかけての須恵器、瓦焼成の窯跡が現在40数カ所確認されている。窯跡の中には比江庵寺跡^⑱の瓦を焼成したタンガン窯跡^⑲や土佐国分寺の平瓦を焼成した東谷窯跡^⑳も存在し、また新改川左岸の河岸段丘に所在する須江上段遺跡^㉑、須江北遺跡^㉒からは官衙的掘立建跡や多量の須恵器、土師器が出土している。特に須恵器には湾曲した遺物が混在しており、須恵器生産に係わる遺跡と考えられる。なお、新改、須江地区は、その西方約2kmに土佐国府を控えていることから国府と密接な結びつきが想定される。

当町南部の沖積平野は高知県最大の平野、香長平野北端部にあたり、広く古代の条理制造構を残している。また、「大領」・「田倉」・「宮毛田」等の地名があり、周辺からは、古代の遺物が表面採集され古代香美郡の郡の推定地^㉓と考えられる。

中世では、土佐戦国七雄に数えられる山田氏^㉔が建久4年(1193)に土佐国へ入部以来、勢力をのばし、楠目の山田城を本拠^㉕に領主制支配を行なうが、長宗我部氏により天文期頃攻撃を受けて滅亡する。

近世にはいり野中兼山^㉖による山田堰、上、中、舟入川の三用水の敷設等による長岡台地の開発により在郷町^㉗として香美郡北部の山間地域と南部の平野部との接点として物産集散地となり、高知城下町の経済圏域として発展し、今日に至る。



番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代	番号	遺跡名	時代
1	中山田古墳	古墳	35	伏見大塚古墳	古墳	69	東山田遺跡	弥生・古墳	103	三嵐山田遺跡	平安
2	森松古墳	*	36	八王寺西古墳	*	70	久御山道跡	古墳～平安	104	人跡山南古墳	平安・中世
3	横田古墳群	*	37	熊山1・2号古墳	*	71	久土石居城跡	中世	105	幡村城跡	中世
4	西久保古墳	*	38	熊山3号古墳	*	72	ハヤマダ道跡	古墳～平安	106	植木ドタ遺跡	弥生・古墳
5	氷瀬ケ谷西古墳	*	39	筆山古墳	*	73	領ケ田道跡	*	107	桃山土居城跡	平安・中世
6	氷瀬ケ谷北古墳	*	40	三島山古墳	*	74	新ヶ内遺跡	*	108	西レドリ道跡	弥生～近世
7	田村氏古墳	*	41	西ノ内道跡	*	75	津井土居城跡	中世	109	モジリカワ道跡	*
8	鬼ヶ谷1号古墳	*	42	小山田1号窓跡	古墳・奈良	76	白鹿田遺跡	古墳～平安	110	山ノ周丸遺跡	中世
9	鬼ヶ谷2号古墳	*	43	小山田2号窓跡	*	77	中ノ土居城跡	中世	111	植木ノサキ遺跡	*
10	熊江ワカツアナ古墳	*	44	小山田3号窓跡	*	78	高畠遺跡	平安～中世	112	山田氏聚落基所	*
11	新改古墳	*	45	西1丁・2・3号跡	奈良	79	比日山城跡	中世	113	ムカイ道跡	乳生～中世
12	新改2号古墳	*	46	東谷本松原跡	奈良・平安	80	江川鹿寺跡	飛鳥・奈良	114	長野川丸道跡	古墳～平安
13	新改3号古墳	*	47	東谷1号窓跡	*	81	源ノ上遺跡	弥生～平安	115	伏呂道跡	弥生～平安
14	新改4号古墳	*	48	東谷2号窓跡	*	82	西母母道跡	古墳	116	朝日城跡	中世
15	椎山1号古墳	*	49	林ノ谷1号窓跡	*	83	三島跡	中世	117	ひびのき大河内遺跡	弥生～近世
16	椎山2号古墳	*	50	林ノ谷2号窓跡	*	84	三島遺跡	弥生～平安	118	田代神社道跡	弥生～中世
17	西ノ内1号古墳	*	51	林ノ谷3号窓跡	*	85	三島道跡	古墳～中世	119	ひびのき道跡	弥生・古墳
18	西ノ内2号古墳	*	52	大谷1号窓跡	*	86	白山遺跡	山代～平安	120	ひびのきの神母道跡	弥生～中世
19	小山田2号古墳	*	53	大谷2号窓跡	*	87	水造遺跡	弥生～平安	121	ひびのきウサギ道跡	弥生～近世
20	小山田3号古墳	*	54	大谷3号窓跡	*	88	柳遺跡	余戸～中世	122	人跡道跡	*
21	タンガン古墳	*	55	八ノ谷窓跡	平安	89	有光北藏山遺跡	平安	123	大百十宿遺跡	弥生
22	深坂古墳	*	56	種七ガイ空跡	古墳・奈良	90	沼の西遺跡	古墳～平安	124	梅日道跡	弥生～近世
23	坂坂古墳	*	57	大寺北2号田麻原	古墳	91	山川三ツ又西遺跡	*	125	鶴舟前遺跡	*
24	坂坂東古墳	*	58	大寺北ヘニヤツノ河原跡	奈良・平安	92	山川三ツ又遺跡	*	126	原遺跡	弥生～近世
25	中野古墳	*	59	大寺北ヘニヤツノ河原跡	*	93	山田三ツ又東遺跡	春代～中世	127	吉野西道跡	弥生～平安
26	瀧湖古墳	*	60	タンガン窓跡	飛鳥	94	谷造遺跡	近世	128	占谷北遺跡	弥生・古墳
27	板ヶ谷古墳	*	61	千庶窓跡	古墳	95	野中神社	近世	129	公雲の芦戸	近世
28	前行山1号古墳	*	62	長谷山1号窓跡	平安	96	須江上段遺跡	古墳～近世	130	公雲の井戸1	*
29	前行山2号古墳	*	63	長谷山2号窓跡	*	97	須江駒跡	平安	131	松木山長久寺跡	中世・近世
30	井傳古墳	*	64	東ノ下所窓跡	古墳～中世	98	須江北道跡	古墳～平安	132	勝福寺跡	*
31	大元神社古墳	*	65	植田恩城跡	*	99	藤原神社道跡	奈良～中世	133	勝寺寺跡	*
32	大元神社北古墳	*	66	中道跡	古墳～平安	100	赤田氏物見の城跡	中世	134	小山田道跡	梅丸古代中世
33	寺弓古墳	*	67	北野道跡	古墳～中世	101	南ヶ内道跡	弥生～中世	135	西谷道跡	開跡歴史
34	小山田古墳	*	68	辻谷道跡	古墳～平安	102	高須丸丸道跡	中世			

図2 周辺遺跡分布図表

註

- (1) 西谷遺跡「土佐山田史談」第25号「土佐山田町における考古学の成果と課題(VI)」2000
- (2)『奥谷南遺跡Ⅰ』(財)高知県文化財団埋蔵文化財センター 1999
- (3)『理文こうち』第14号 P13 高知県教育委員会文化財保護室 2000
- (4) 小山田遺跡 註1と同じ
- (5)『飼古屋岩陰遺跡発掘調査報告書』日本道路公团・高知県教育委員会 1983
- (6)『林田シタノゾ遺跡Ⅱ 農村基盤総合整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1993
- (7)『龍河洞』高知県教育委員会 1959
- (8)『土佐山田町史』 P52 土佐山田町教育委員会 1979
- (9) 註8と同じ P52
- (10) 註8と同じ P52
- (11)『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡-』高知県教育委員会 1982
『公共施設設置に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 -原遺跡Ⅱ-』『高知県文化財調査報告書』第25集 高知県教育委員会 1984
- (12)『原南遺跡発掘調査報告書』高知県文化財団 1991
- (13)『ひびのき遺跡』土佐山田町教育委員会 1977
- (14)『ひびのきサウジ遺跡発掘調査報告書』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第8集)土佐山田町教育委員会 1990
- (15)『林田遺跡発掘調査報告書』土佐山田町教育委員会 1985
- (16)『伏原大塚古墳』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第14集)土佐山田町教育委員会 1993
- (17) 註8と同じ
- (18)『高知県文化財調査報告書第16集 高知県比江廃寺跡』高知県教育委員会 1970『高知県埋蔵文化財報告書 第33集 比江廃寺跡発掘調査概報』高知県教育委員会 1991
- (19) 註8と同じ
- (20)『新改東谷古窯跡群発掘調査』土佐山田町教育委員会 1978
- (21)『土佐山田北部遺跡群-山田北部県営は塙整備事業に伴う埋蔵文化財試掘調査報告書-』(土佐山田町埋蔵文化財調査報告書第12集)土佐山田町教育委員会 1992
- (22) 註21と同じ
- (23)岡本健児「土佐神道考古学5」「土佐史談」第120号
- (24) 註8と同じ
- (25) 註8と同じ
- (26) 註8と同じ
- (27) 註8と同じ

第Ⅱ章 調査に至る経過と調査方法

1. 調査に至る経過

近年、農業の規模拡大等の整備政策が進められ、農業構造改善事業として、圃場整備事業が行なわれている。当新改地区においても改良組合が設立され、山田北部地区土地改良、新改西部土地改良、新改中部土地改良と設立され、県営圃場整備事業が計画、実施されている。

新改中部土地改良区内は県下でも有数の埋蔵文化財包蔵地であり、土佐山田町教育委員会は工事計画との調整資料を得るために、平成8.9.10年度に文化庁国庫補助金により遺構の範囲確認のための試掘調査を実施し、基礎データを得た。その後、事業施工による埋蔵文化財の保存協議を高知県中央耕地事務所、新改中部地区土地改良区、土佐山田町教育委員会の三者で協議した。その結果、盛土工法等による計画変更がなされたが一部施工計画が変更できない箇所について、遺構の記録保存を図る調整協議がされ、記録保存のための発掘調査を実施した。

2. 調査の方法

試掘調査の結果により、水路、農道、削平部の調査区を設定し、耕作土を等の表土を主に重機により除去せず行ない、遺構検出面または、遺物包含層直上まで掘削を行なった後、人力による精査を行なった。遺構、遺物の出土状況及び土層等については、写真撮影を行なった後、平面図及び断面図を作成した。遺物の取り上げ、遺物の実測については、任意座標に基づいて地区全体に4m方眼をかけ記録、実測を行なった。平面実測、及び地層断面については、20分の1を基本とし、必要に応じて10分の1の実測を行なった。

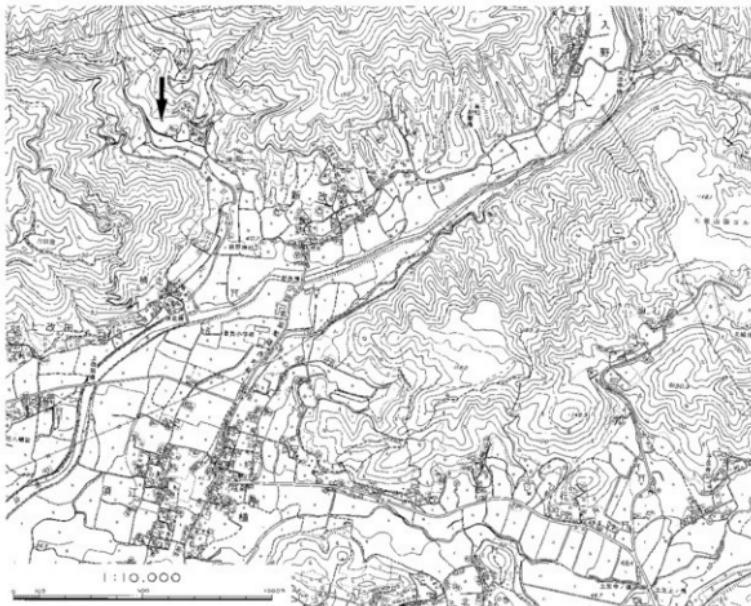


図3 周辺地形図

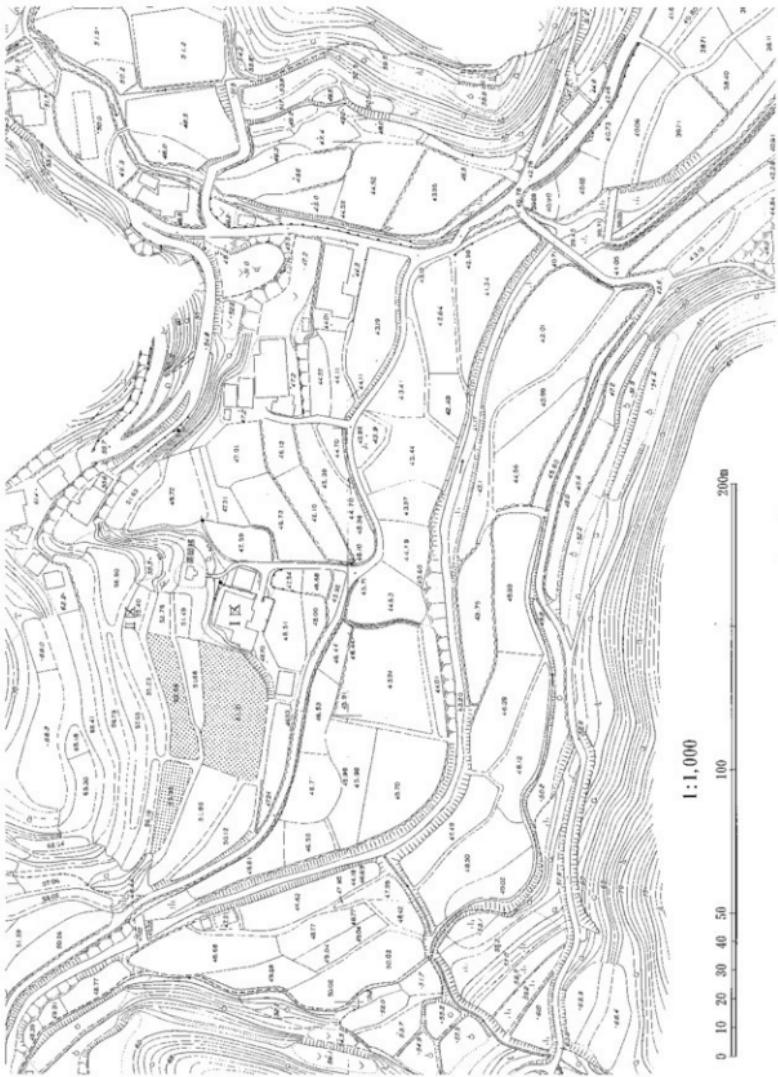


図4 発掘調査位置図

第三章 遺構と遺物

1. I区調査成果

遺構は調査区の中央部に集中している。基本層序は1層が褐色粘土質土層、2層明黄褐色粘土質土層、3層灰色粘土質土層、4層暗オリーブ褐色粘土質土層、5層暗赤褐色粘土質土層からなる。遺構は客土による平坦地の造成面より検出される。

今回の調査で確認された遺構のうち、土坑、溝跡、ピットが検出されたが、圃場整備施工により影響受ける調査区の南端、3分2を調査し、北側3分1は遺構検出のみの調査とし、遺構検出状態で全体写真、平板測量の記録とした。これら遺構のうち、遺物出土の土坑2基、ピット1個について報告する。

(1) 土坑

SK-1(図5)

平面形は円形を呈し最大径1.10m、深さ20cmを測る。

出土遺物(I区遺物観察表番号6)

遺物は、土師質土器1点で、口縁部の破片である。胎土は精選された粘土が使用され、内外面ともにロクロによる横ナデ調整が見られる。

SK-2(図7)

円形を呈し、最大径1.30m、深さ30cmを測る。遺構上層には拳大の石がみられ、土坑の底部は丸底で約10cmの厚さで粘土がみられる。

出土遺物(図版41・42)

遺物は、遺構内部から鉄器、鉄滓、炉壁と考えられる焼成粘土の遺物が出土している。

(2) ピット

P-42(図7)

平面形はほぼ円形を呈し、直径30~33cm、底部は平坦で深さ15cmを測る。

出土遺物(I区遺物観察表番号35)

遺物は結晶片岩の石製品で長さ18cm、厚さ20cm、端部に1cmの孔がみられる。用途は不明である。寺院に係わる仏具の石礪の類のものではないかと考えられる。

(3) 包含層出土遺物

当遺跡からは遺構からの遺物は殆ど細片であるが包含層より土師器、土師質土器、瓦質土器、瓦器、白磁、青磁、備前焼、瀬戸焼、染付けが出土している。内訳はI区遺物観察表を参照されたい。

ここでは、種類ごとに分類し、遺物についての説明を行う。

土師器(I区遺物観察表1.2)

1は高台を持つ土師器の碗の底部の破片で全体は摩耗しており調整は不明である。2は皿で内外面にロクロによる横ナデ調整、底部は籠による切り離しがみられる。

土師質土器(I区遺物観察表3~13)

10, 11, 12は土師質土器の底部の破片で回転糸切りによる切り離しがみられ、内面にはロクロによる横ナデ調整がみられる。全体的に摩耗している。8, 9, 11, 13, 20は、土師質土器の小皿でロクロによる横ナデ調整、底部は摩耗しているが回転糸切りが確認できる。10は杯で底部は回転糸切りで内外面にロクロによる横ナデ調整がみられ、

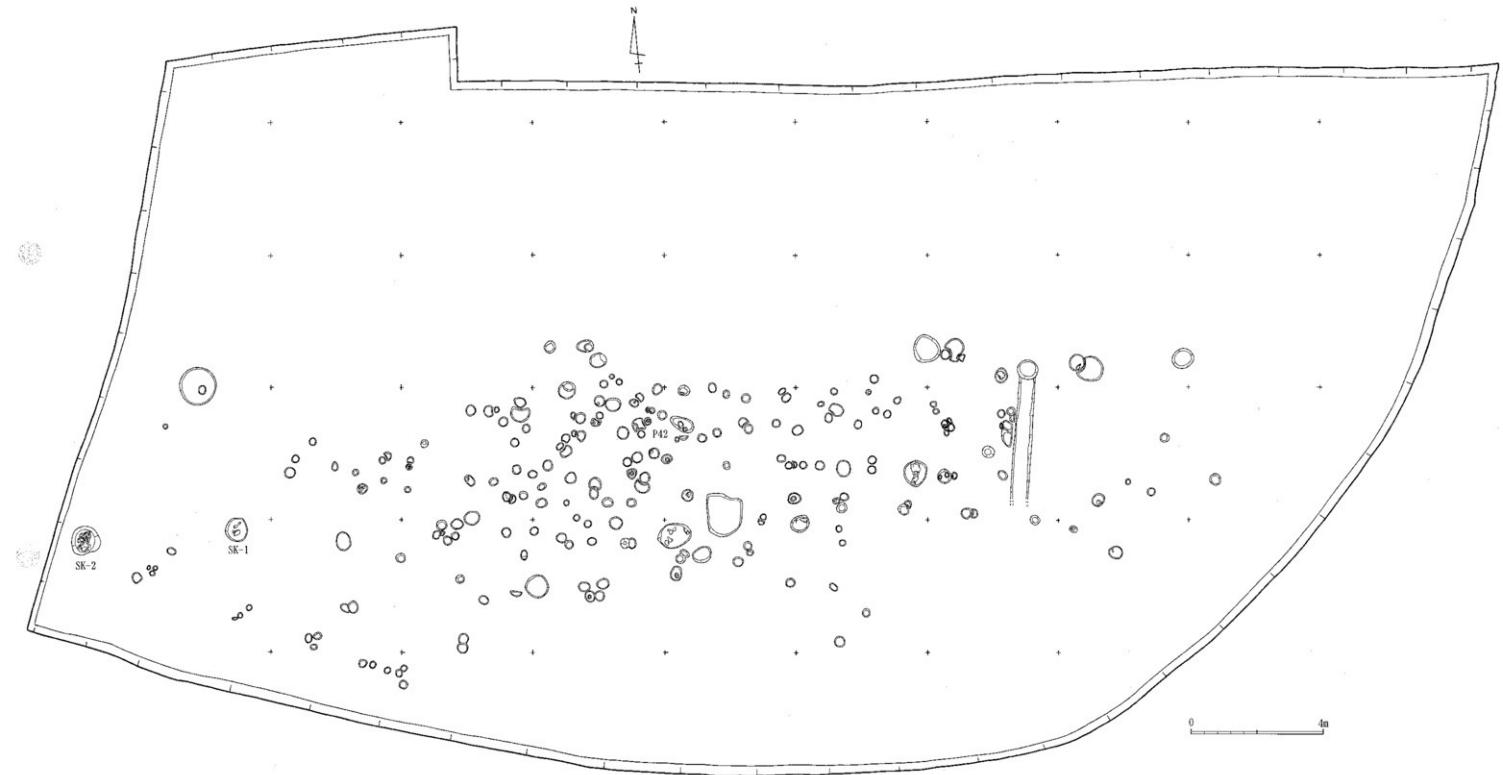


图5 I区遗構平面图

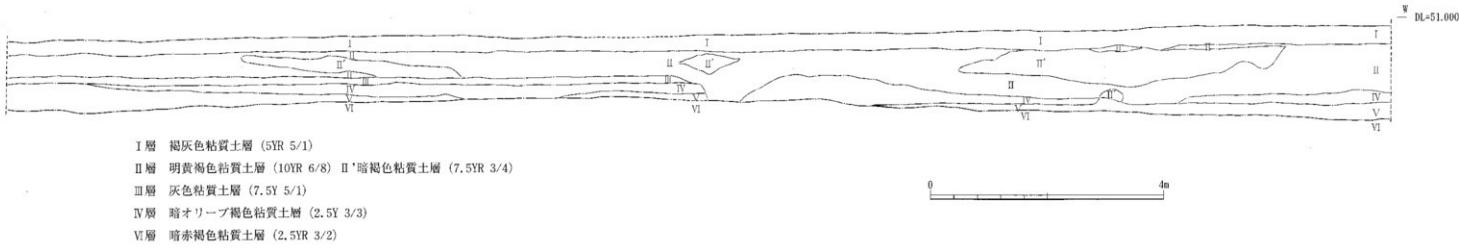


図6 I区南壁セクション図

器壁はやや厚く硬質であり、胎土の砂粒は細かく緻密である。底部より外反し、肩部半ばでやや内反し、口縁部は丸くなる。7.12は土部質の鍋の口縁部の破片では砂粒をふくむ胎土。摩耗により器面の調整は不明。鍋は三角状をなす。12も砂粒をやや多く含む胎土で、器面は摩耗により調整不明。鍋は貼り付けである。

瓦質土器・瓦器(Ⅰ区遺物観察表14~21)

14は鍋の口縁部であるが内外面とも摩耗により調整不明。胎土は精選された粘土である。15は鍋の口縁部で精選された粘土が使用され、外面にロクロによる横ナデ調整が施される。16は碗の口縁部で内外面はロクロによる横ナデ調整がほどこされ、外面には一部指圧調整がみられる。胎土は、精選された粘土が使用されている。17は鍋の口縁部で内外面とも摩耗により調整は不明である。18は擂鉢の口縁部で内外面とも摩耗により調整は不明である。19は鍋の口縁部で内外面は摩耗により調整は不明である。21は皿で内外面は摩耗により調整は不明である。胎土は精選された粘土を使用している。

白磁(Ⅰ区遺物観察表22~24)

22は碗の底部で高台が付く。胎土は精緻で底部内面に釉薬が施されている。23は碗の口縁部で胎土は精緻、内外面に釉薬を施す。24は碗の底部で高台が付く。胎土は精緻で底部内面に釉薬が施される。

青磁(Ⅰ区遺物観察表25~28)

25は碗の口縁部で胎土は精緻。オリーブ色の釉薬を施す。26は碗の口縁部で外面には蓮弁紋がみられ、オリーブ色の釉薬を施す。27は碗の底部で低部は平底である。胎土は精緻。平底を除く内外面にオリーブ色の釉薬を施す。28は碗の口縁部で胎土は精緻。内外面にオリーブ色の釉薬を施す。

備前焼(Ⅰ区遺物観察表29)

擂鉢の口縁部で内面に縱溝がみられる。胎土は石英を含む。

瀬戸焼(Ⅰ区遺物観察表30)

天目茶碗の底部で胎土は精緻。内面に釉薬を施す。

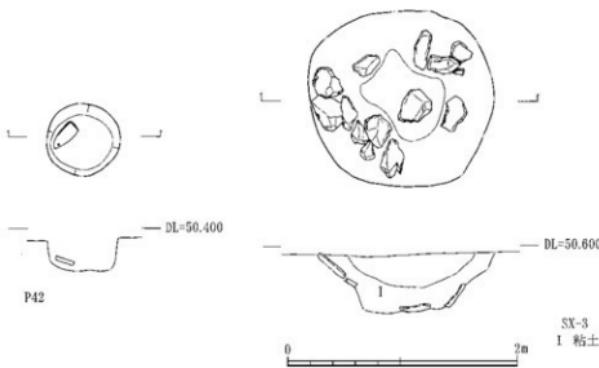


図7 I区P42、SX-3遺物断面図

染付(I 区遺物観察表31~34)

31~34とも碗の口縁部の破片で胎土は精緻。全体に釉薬を施しブルーの染付けを施す。

その他(図版44)

検出されたピット、包含層より玉石が数十点出土している。チャートが殆どである。

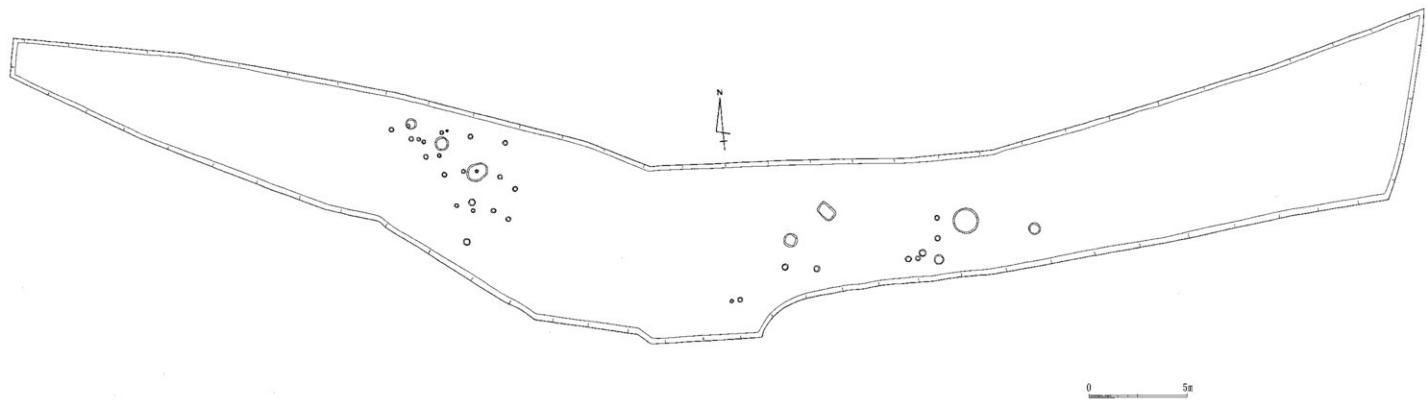


图8 II区灌沟平面图

2. II区調査成果

遺構は調査区中央部分より散在して検出された。基本層序は1層褐色粘質土層、2層黄褐色粘質土層、3層褐色粘質土層、4層明褐色粘質土層で遺構検出面は3層である。

遺構は調査区の中央東側と西側で検出されたが遺物を伴う遺構は検出できなかった。以下包含層より出土した遺物について述べる。

(1) 包含層出土遺物

土師質土器(II区遺物観察表1)

3は土師質土器の口縁部の破片で内外面ともに摩耗が著しく、調整不明。

瓦(II区遺物観察表2~4)

すべて平瓦である。凹面に布目痕がみられ、凸面には範によるナデ調整が施される。胎土は精選された粘土が使用されている。焼成は良い。

青磁(II区遺物観察表5)

碗の底部で細い高台が付く。胎土は精緻で高台外の内外面にオリーブ色の釉薬を施す。

尾戸焼(II区遺物観察表6)

碗の口縁部で胎土は精緻。内外面にロクロによる調整が施される。胸部底部以上に釉薬を施す。

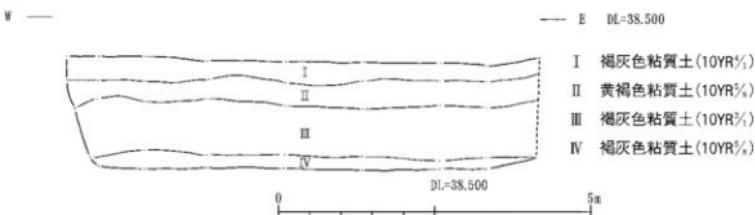


図9 II区北壁セクション図

I 区 遺物観察表

番号 No.	国 Na.	写真 No.	分類 No.	当土地点 遺物・層位	種類	器種	法數 (cm)			釉主	焼成	色調	特徴 成形・調色/その他の
							口径	高さ	底径				
1	1	9	1	Ⅱ層 (底部)	土器	十脚器	(8.4)	(1.4)	6.0	精選された黏土	やや良	内面: 10.98/4浅黄 外面: 10.92/5に赤い斑 底面: 10.98/3浅黄	摩耗により調色不明
2	2	1	1	Ⅱ層 灰	土器	土師器	17.4	2.65	12.0	2mm粒を含む	良	内面: 10Y R 8/4浅黄 外面: 10Y R 8/3浅黄	内外面クロによる焼ナデ調整
3	8	10	2	V層 (底部)	土器	土師質土器	(15.2)	(1.8)	4.6	精選された粘土	やや良	内面: 10.98/3に赤い斑 外面: 10.92/3に赤い斑 底面: 7.53/7.4に赤い斑	調色余切り クロによる焼ナデ調整
4	7	11	2	V層 (底部)	土器	土師質土器	(9.2)	(2.8)	5.6	最大2mm小石含む 粗粒砂	やや良	内面: 10.98/3に赤い斑 外側: 2.51/2淡黄 底面: 10.98/3に赤い斑	摩耗により調色不明 クロによる焼ナデ調整
5	4	12	2	Ⅲ層 灰	土器	土師質土器	(8.8)	(2.0)	6.2	6mm小石含む 粗粒砂	やや良	内面: 10.92/3に赤い斑 外側: 2.51/2淡黄 底面: 10.98/3に赤い斑	調色余切り 摩耗により調色不明
6	3	13	2	SK-2 (口縁部)	土器	土師質土器	14.2	(2.3)	-	精選質 2mm程度小石含む	やや良	内面: 9.97/6淡黄 外側: 2.51/2淡黄 底面: 7.51/5-4浅黄	クロによる焼ナデ調整
7	14	18	2	Ⅱ層 (口縁部)	溝	土師質土器	3.8	(3.3)	-	精選粒を含む	やや不良	内面: 7.51/5.1灰 外側: 7.51/5.2灰 底面: 7.51/4灰	摩耗により調色不明 焼ナデ縁部下につく
8	9	6	2	Ⅲ層 小孔	土器	土師質土器	6.2	1.3	4.6	精選粒を含む	良	内面: 9.96/3.1に赤い斑 外側: 10.98/2灰白	クロによる焼ナデ調整 外側削耗
9	10	7	2	Ⅱ層 小孔	土器	土師質土器	6.8	1.4	4.6	精選された粘土	不良	内面: 2.51/7.4淡赤 外側: 2.51/7.3淡赤	摩耗により調色不明
10	3	3	2	Ⅱ層 灰	杵	土師質土器	10.0	4.9	4.8	精選された粘土	良	内面: 7.35/7.4に赤い斑 外側: 7.35/7.4に赤い斑	ロクロによる焼ナデ調整 底面余切り
11	11	8	2	Ⅱ層 小孔	土器	土師質土器	6.2	1.2	4.6	精選された粘土	良	内面: 7.35/6.5に赤い斑 外側: 9.92/3に赤い斑	ロクロによる焼ナデ調整
12	15	14	2	Ⅲ層 縫	土器	土師質土器	29.0	(5.8)	-	7mm小石含む	やや不良	内面: 10.98/4淡黄 外側: 10.92/4淡黄 底面: 9.98/4灰	摩耗により調色不明
13	13	5	2	Ⅲ層 小孔	土器	土師質土器	6.0	1.8	4.6	精選された粘土	良	内面: 2.51/6.4に赤い斑 外側: 2.51/6.3に赤い斑	ロクロによる焼ナデ調整
14	21	15	4	Ⅲ層 (口縁部)	瓦質土器	瓦質土器	13.0	(3.7)	-	精選された粘土	やや良	内面: 2.51/7.1灰白 外側: 2.51/7.1灰白 底面: 9.97/7灰白	摩耗により調色不明
15	16	19	4	Ⅲ層 縫	瓦	瓦器	25.6	(4.0)	-	精選された粘土	良	内面: 9.91/オリーブ 外側: 9.91/オリーブ 底面: 9.91/灰	クロによる焼ナデ調整
16	19	16	4	Ⅲ層 (口縁部)	瓦	瓦器	10.4	(2.9)	-	精選された粘土	良	内面: 9.91/灰 外側: 9.91/灰 底面: 9.91/灰	焼ナデ調整
17	17	17	4	Ⅲ層 縫	瓦	瓦質土器	23.0	(5.1)	-	小石を含む	やや良	内面: 2.51/8.1灰白 外側: 2.51/7.1灰白 底面: 9.91/灰	摩耗により調色不明
18	22	21	4	Ⅲ層 (口縁部)	瓦質土器	瓦質土器	27.6	(4.1)	-	小石を含む	やや不良	内面: 9.91/灰白 外側: 9.91/灰白 底面: 9.91/灰白	摩耗により調色不明
19	20	20	4	Ⅲ層 (口縁部)	瓦	瓦質土器	17.4	(2.4)	-	精選された粘土	不良	内面: 9.91/灰白 外側: 9.91/灰白 底面: 9.91/灰	摩耗により調色不明
20	18	4	4	Ⅲ層 灰	土器	土師質土器	5.8	1.7	4.2	粗小粒を含む	良	内面: 2.51/7.4淡赤 外側: 2.51/7.4淡赤	内外面焼ナデ調整
21	12	2	4	Ⅲ層 瓦	瓦	瓦質土器	14.2	2.9	-	精選された粘土	不良	内面: 9.91/灰白 外側: 8.71/灰白	摩耗により調色不明
22	23	23	5	Ⅲ層 (底部)	内瓶	(9.1)	(2.5)	7.4	白灰色で擦耗	良	内面: 9.91/2灰白 外側: 9.91/2灰白 底面: 9.91/2灰白	クロによる調整	
23	25	25	5	V層 (口縁部)	白瓶	白瓶	13.8	(2.8)	-	白灰色で擦耗	良	内面: 7.51/7.2白 外側: 7.27/7.1灰白 底面: 9.91/7灰白	内外面和柔
24	24	24	5	Ⅲ層 底部	白瓶	白瓶	(6.8)	(2.0)	6.8	白色で擦耗	良	内面: 9.91/灰白 外側: 2.51/2灰白 底面: 2.51/2灰白	内面和柔
25	26	26	6	Ⅲ層 (口縁部)	青瓶	青瓶	17.0	(3.2)	-	白灰色で擦耗	良	内面: 7.51/7.2白 外側: 10.97/7灰白 底面: 2.51/2灰白	内面和柔
26	27	29	6	Ⅲ層 (口縁部)	青瓶	青瓶	14.0	(4.1)	-	灰白色で擦耗	良	内面: 5.91/7灰白 外側: 7.51/2オリーブ 底面: 2.51/2灰白	内面和柔 外側和柔

番号 No.	図 No.	写真 No.	分類 No.	出土地点 遺構・層位	種類	剖面 (6.8)	法量 (cm)			粘土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他
							口径	高さ	底径				
27	38	27	6	Ⅱ層	底部	青磁	14.4	(2.6)	-	灰白色で滑軟	良	内面: 5.06/2灰オーリーブ 外面: 10.16/2灰オーリーブ灰 断面: 10.96/1灰白	ベタ底 内外出墨
28	29	28	6	Ⅱ層	(口縁部)	青磁	-	-	-	灰白色で滑軟	良	内面: 5.06/2灰オーリーブ 外面: 5.06/2灰オーリーブ 断面: 5.07/2灰白	内外面施釉
29	32	22	7	Ⅱ層	(底部)	青磁	-	-	-	石英含	やや良	内面: 5.04/0灰 外面: 5.05/0灰 断面: 5.06/0灰	内外面接ナギ調整
30	33	39	8	Ⅱ層	(L.I.縁部)	天目茶碗 (窓戸焼)	(4.6)	(1.4)	3.8	白色で滑軟	良	内面: 5.02/0灰 外面: 2.35/2灰白 断面: 2.35/2灰白	内面釉系
31	34	32	9	Ⅱ層	(口縁部)	茶付	12.6	(3.6)	-	灰白色で滑軟	良	内面: 2.507/1灰オーリーブ灰 外面: 2.507/1灰オーリーブ灰 断面: 3.07/1灰白	外側に種墨
32	37	31	9	Ⅲ層	(口縁部)	角付	15.0	(3.6)	-	灰白色で滑軟	良	内面: 7.57/1灰白 外面: 2.507/1灰オーリーブ灰 断面: 3.07/1灰白	内外面施釉
33	36	33	9	V層	(口縁部)	角付	10.4	(2.6)	-	灰白色で滑軟	良	内面: 7.57/1灰白 外面: 7.51/1灰白 断面: 3.04/1灰白	内外面施釉
34	35	34	9	V層	(口縁部)	茶付	14.0	(3.0)	-	白色で滑軟	良	内面: 10.7/1灰白 外面: 2.508/1灰白 断面: 2.508/1灰白	摩耗により調整不明
35	41	43	F13		石製品								結晶片岩

II 区 遺物観察表

番号 No.	写真 No.	分類 No.	出土地点 遺構・層位	種類	剖面 (L.I.縁部)	土質 +加賀土器	法量 (cm)			粘土	焼成	色調	特徴 成形/調整/その他
							口径	高さ	底径				
1	6	35	2	Ⅱ層	碗 (L.I.縁部)	十加賀土器	16.8	(2.8)	-	研磨された粘土	不良	内面: 5.07/4灰に点々 外面: 7.03/8/4浅黄褐 断面: 3.7/4灰黄	摩耗により調整不明
2	38	40	3	Ⅱ層	市貝瓦	平瓦	(5.0) (全長)	(8.4) (幅)	(1.3) (幅)	研磨された粘土	良	内面: 7.5V/1灰 外面: 5.0/1灰 断面: 3.7/2灰白	凸面へによる調整 凹面市貝瓦
3	39	29	3	Ⅱ層	市貝瓦	平瓦	(7.7) (全長)	(10.5) (幅)	(1.3) (幅)	研磨された粘土	良	内面: 5C/0灰 外面: 5.0/1灰 断面: 5.0/1灰	凸面へによる調整 凹面市貝瓦
4	40	28	3	Ⅱ層	市貝瓦	平瓦	(11.1) (全長)	(1.3) (幅)	石英小粒を含む	良	内面: 5C/0灰 外面: 5.0/1灰 断面: 5.0/2灰白	凸面市貝瓦 凹面市貝瓦	
5	30	36	6	Ⅲ層	瓶 (底部)	青磁	(11.0)	(2.2)	6.0	灰白色で滑軟	良	内面: 7.5W/2灰オーリーブ 外面: 7.5W/2灰オーリーブ 断面: 3.77/1灰白	内外面に釉系
6	31	37	10	Ⅲ層	(口縁部)	尾戸焼	9.8	(3.5)	-	茶色滑軟	良	内面: 10.0B/2灰青緑 外面: 2.513/2暗肉 断面: 3.05/1灰	内外面クロコによる快ナデ 調査

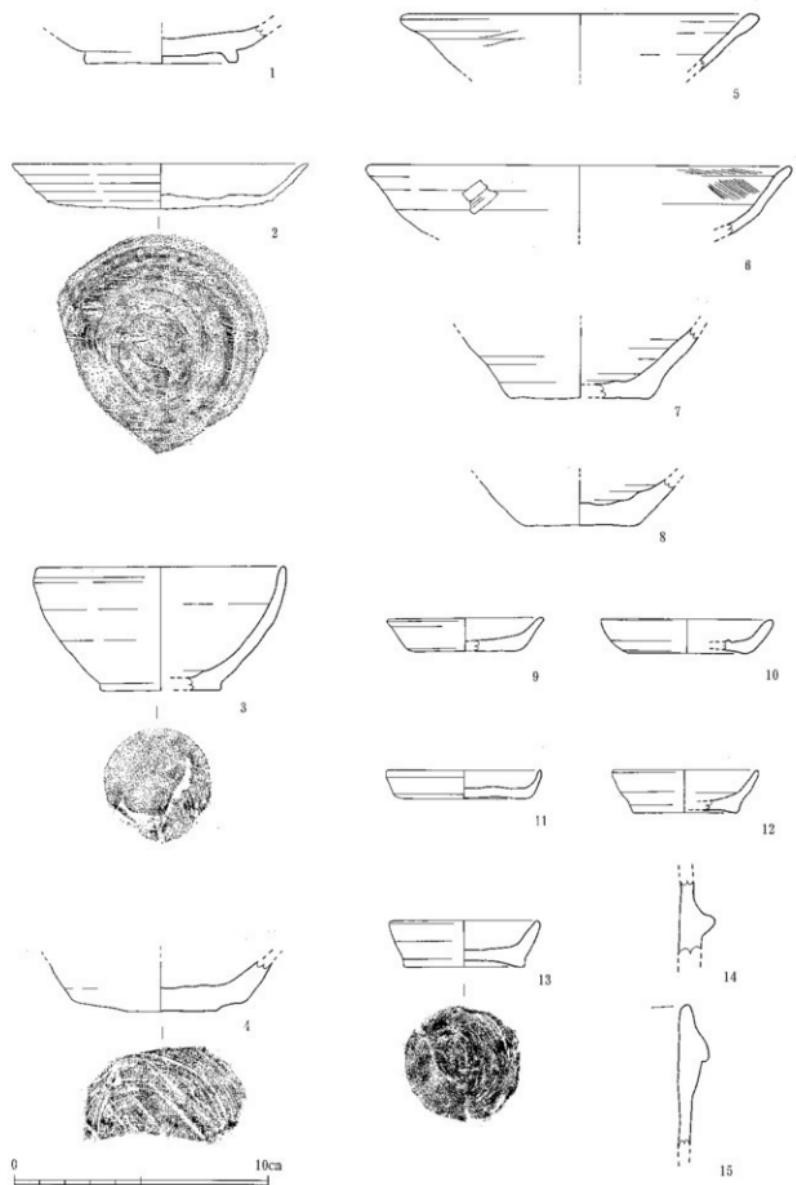


図10 勝樂寺跡出土遺物①

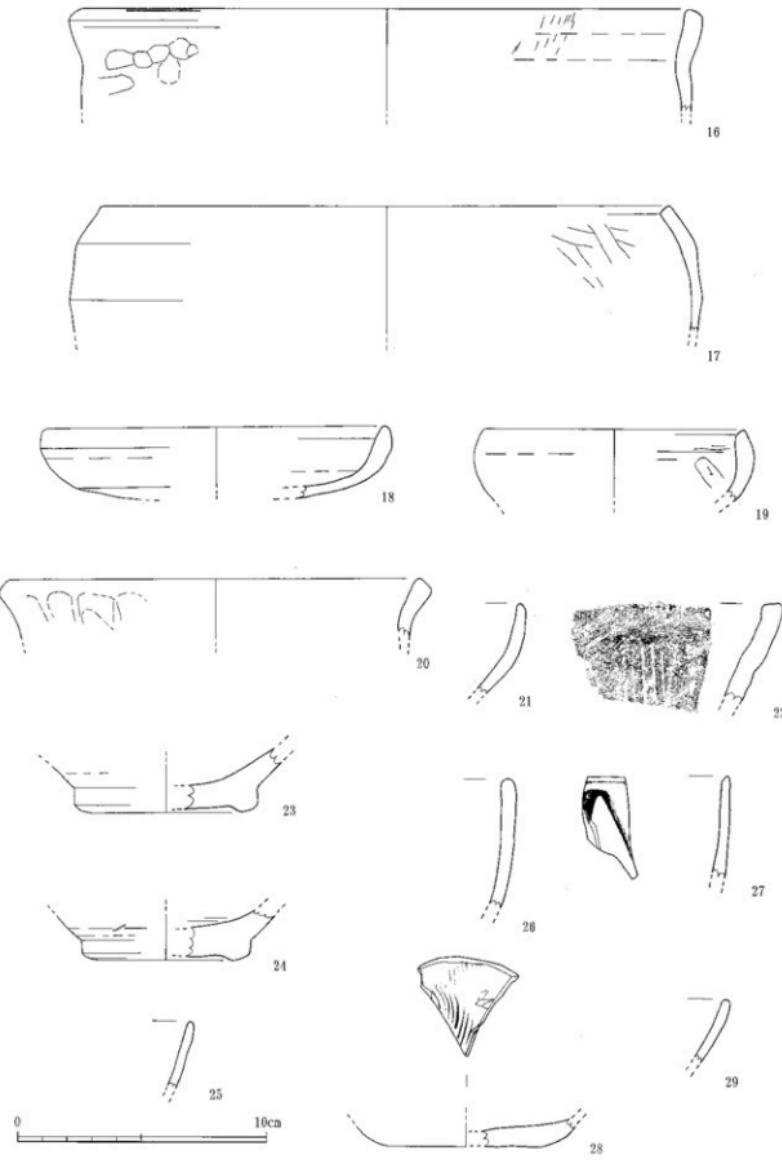


図11 藤原寺跡出土遺物②

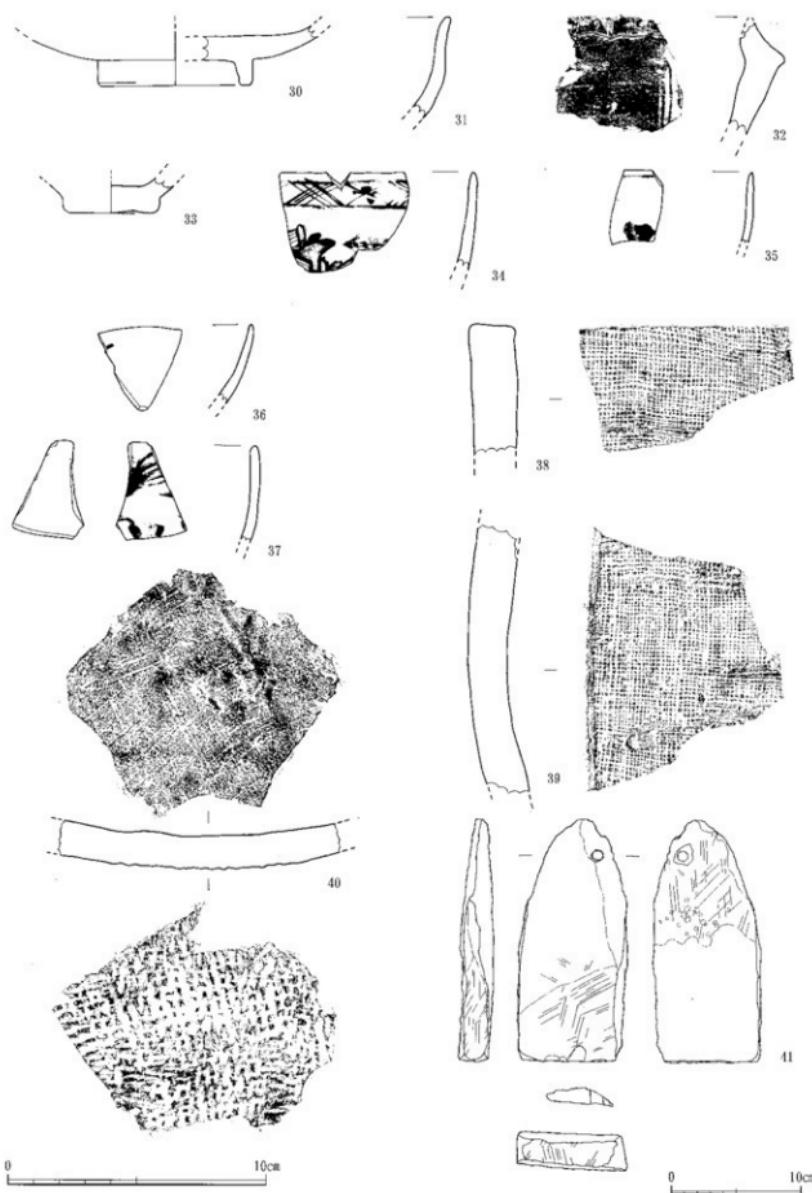


図12 勝樂寺跡出土遺物③

西谷遺跡の遺物

(1) 包含層遺物について

西谷遺跡は新改川に北西から流れ込む支流砥川の左岸の山麓部の南斜面の棚田状の水田に位置している。立地は南国市奥谷南遺跡と非常に類似しており、北西から北東へ開く谷の開口部近くである。調査区の山側部分では耕作土下30~40cmで黄褐色の地山が確認され、この面で中世の柱穴群が検出されており、勝樂寺跡に関連する遺構と考えられる。調査区の谷側で音土層(黒ボク)混じりの盛土層(客土)により現況の水田が造成されており、この盛土層中からナイフ形石器の出土が確認されたことにより、西谷遺跡が旧石器時代の遺物を含む遺跡であることが判明した。

調査は、ナイフ形石器の出土が確認された時点で谷側の盛土を1mグリッドにより地山面まで掘り下げ、堆上についても鋤によって遺物の検出に努めた。

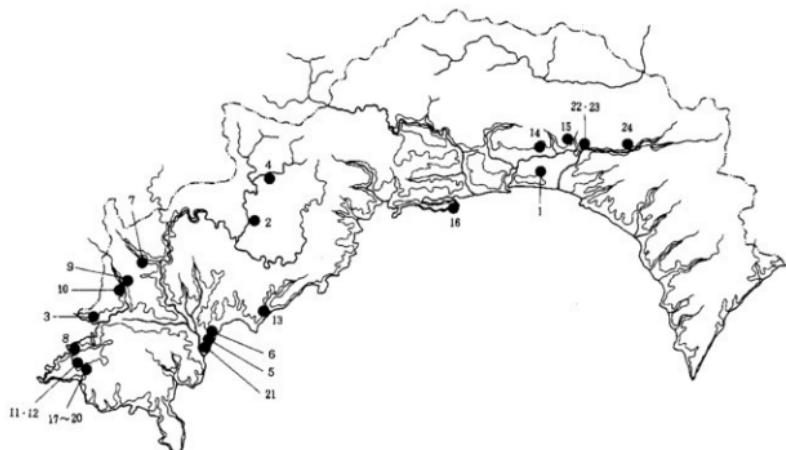
ナイフ形石器が出土した盛土層には土師器、須恵器など各時代の遺物が混在しており、水田造成による後世の二次堆積と考えられ、残念ながらナイフ形石器自体も二次堆積への混入遺物である。しかしながら盛土の状況及び石器の出土状況からすると盛土自体が他地域からの搬入したものではなく、斜面上面からの掘削土を盛土している可能性が高く、ナイフ形石器も二次堆積ではあるが、ある程度まとまった資料と考えられる。

ナイフ形石器は断片も含めて約60点ほどが出土しており、旧石器時代の少ない高知県においては単独道路からのナイフ形石器の出土としては圧倒的な量である。ナイフ形石器はやや大形の石器を除くとすべて全長3cm以内の小形のナイフ形石器であり、1.5~2cmのものが中心を占める。使用される石材は欠岩以外はすべてチャートが使われている。プランティングは一側面にのみ行われているものが多く見受けられ、半数以上を占める。全長1cm内外の最も小形のナイフ形石器は不定形であり、素材となる小剥片を裁断する様に一側面にプランティングがみられる。

ナイフ形石器以外の石器はみられず、大半が小形の剥片類であり、一部剥片には小さなリタッチが行われている。石核も5cm以内の小形のものが数点確認されており、打面転位を行い、小剥片を剥離している。また、剥片には繊皮面を持つものが少数ではあるが存在しているので、転石を原材として使用しているものと思われる。

旧石器時代の遺物以外として弥生土器片、縄文土器、石錐(サスカイト、チャート)が数点出土しており、チャートの剥片の中には縄文時代の遺物も若干混在していることも考えられるが、石錐の素材がサスカイトが多くあることからすれば、チャートは旧石器時代に属する遺物と考えられる。

旧石器時代の変遷



番号	遺跡名	所在地	採集・調査年	出土遺物	石材
1	高岡原古墳(1号墳)	高知市	1965	細石核1点	チャート
2	八尾遺跡	大正町	1971	刮削1点	チャート
3	土須ヶ木遺跡	宿毛市	1975	ナイフ形石器1点	チャート
4	彦野地遺跡	舞原町	1984～1987	ナイフ形石器2点、猿器、刮削器	チャート・頁岩
5	双海中軒場遺跡	中村市	1988	ナイフ形石器1点	ホルンフェルス
6	弓削木軒場遺跡	中村市	1989	三棱尖頭器1点	サヌカイト
7	広井越後遺跡	西上佐村	1990	細石核1点	頁岩
8	亀ヶ追遺跡	大月町	1992	ナイフ形石器2点	頁岩
9	滝ノ上遺跡	宿毛市	1994	ナイフ形石器1点	頁岩
10	勝山遺跡	宿毛市	1995	ナイフ形石器1点他	頁岩
11	ナシタ森遺跡(A地点)	大月町	1992～1998	角錐状石器	珪質頁岩
12	ナシタ森遺跡(B地点)	大月町	1992～1994	ナイフ形石器5点、角錐状石器	珪質頁岩
13	舎我城跡	大方町	1996	尖頭器1点	頁岩
14	畠谷南遺跡	高岡市	1996	ナイフ形石器52点、尖頭器23点、細石刃400点、細石核150点	チャート・頁岩
15	新次西谷遺跡	土佐山田町	1997	ナイフ形石器61点	チャート
16	鬼追跡	土佐市	1998	ナイフ形石器1点	チャート
17	鍋土越遺跡	大月町	1999	ナイフ形石器1点	珪質頁岩
18	フキノ谷山遺跡	大月町	1999	ナイフ形石器1点	珪質頁岩
19	池川遺跡	大月町	1999	角錐状石器1点	頁岩
20	大内遺跡	大月町	1999	翼狀網片1点	珪質頁岩
21	佐野横目山遺跡	土佐山田町	1999	ナイフ形石器、台形石器、角錐状石器	チャート
22	イハサキ・タイノウチ遺跡	土佐山田町	1999	猿器	チャート
23	本野長岡遺跡	香北町	1999	台形石器	チャート
24	平野茶園遺跡	中村市	1999	ナイフ形石器、細石核素材	頁岩

図13 高知県旧石器時代遺跡位置図及び一覧表
(『高知大学黒潮圏研究所所報くろしお特別号11』平成13年12月8日発行より)

新改西谷遺跡・実測遺物法量計測表

実測番号	分類番号	時期	遺物(器種)	石核	層	出土地点	質量	長さ	幅	厚さ	備考
1	1	弥生	石核	サヌカイト	N	I 区	4.44	3.33	2.18	0.67	
2	1	弥生	石核	サヌカイト	N	I 区	2.64	2.37	2.32	0.56	
3	1	弥生	石核	サヌカイト		I 区	2.05	2.29	2.30	0.34	
4	2	縄文	石核	サヌカイト	N	I 区	0.69	2.16	1.82	0.41	
5	2	縄文	石核	サヌカイト	N	I 区	0.46	1.59	1.53	0.30	先端欠損
6	2	縄文	石核	サヌカイト	II	II 区	0.31	1.16	1.37	0.26	
7	2	縄文	石核	サヌカイト		I 区	0.49	1.74	1.37	0.49	
8	2	縄文	石核・剥片	チャート		I 区	0.85	1.81	1.50	0.44	
9	2	縄文	石核	チャート		I 区	0.39	1.51	1.00	0.41	
10	2	縄文	器種不明	チャート	V	I 区	2.20	1.87	1.70	0.59	押江剥離
11	2	縄文	器種不明	チャート	V	I 区	0.13				押江剥離・縄文石器の破損品
12	2	縄文	スクレーパー	サヌカイト	III	II 区					
13	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.51	1.55	0.38	0.54	
14	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.66	1.56	1.25	0.41	
15	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		II 区	0.77	2.19	0.93	0.49	
16	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.36	1.40	0.90	0.42	
17	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	2.33	2.36	1.34	1.07	
18	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.22	1.42	0.88	0.42	
19	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	3.56	2.95	1.95	0.51	
20	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	2.72	2.67	1.76	0.60	
21	3	旧石器	ナイフ型石器	貝岩		I 区	0.63	2.30	0.83	0.45	
22	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.14	2.62	0.97	0.60	
23	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	N・F	I 区	8.61	4.36	1.91	1.15	
24	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	1.01	1.90	1.27	0.37	
25	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.88	2.46	1.81	0.61	
26	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	3.32	2.44	2.24	0.78	
27	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.69	2.39	0.68	0.43	
28	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.31	1.35	0.76	0.32	
29	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.34	1.53	0.93	0.41	
30	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.61	1.89	0.91	0.58	
31	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	9.25	4.31	2.35	1.00	
32	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.43	2.61	1.11	0.55	
33	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.64	2.15	0.88	0.38	
34	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.10	2.24	1.15	0.41	
35	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.25	2.30	1.31	0.51	
36	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	1.66	2.26	1.35	0.79	
37	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.03	2.22	1.23	0.42	
38	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	2.73	2.42	1.68	0.63	
39	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.45	2.46	1.47	0.60	
40	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.92	1.75	1.05	0.51	
41	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.97	1.98	1.28	0.46	
42	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	2.38	3.03	1.44	0.59	
43	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.38	1.53	0.86	0.30	
44	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.29	...		0.60	
45	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.22	0.92	0.93	0.40	破損

実測 番号	分類 番号	時期	遺物(器種)	石材	層	出土地点	質地	長さ	幅	厚さ	備考
46	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.39			0.39	
47	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.44			0.89	
48	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.86	0.95	1.26	0.60	破損
49	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.53	1.65	0.75	0.50	
50	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.97	2.01	1.08	0.58	
51	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.21	1.70	1.36	0.49	
52	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.51	1.63	1.05	0.46	
53	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.40	1.63	1.18	0.32	
54	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.19	1.34	0.87	0.25	
55	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.64	2.13	0.96	0.47	
56	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.40	1.31	1.16	0.44	
57	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.27	1.53	0.61	0.53	
58	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.60	1.71	1.31	0.31	
59	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.77	1.60	1.22	0.54	
60	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.53	1.92	0.83	0.44	
61	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.20	1.06	0.90	0.39	
62	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.27	1.61	0.99	0.22	
63	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.41	1.33	0.94	0.49	
64	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.89	1.73	1.26	0.52	
65	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.50	1.90	0.85	0.34	
66	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	2.60	2.92	1.85	0.77	
67	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.07	1.81	1.26	0.67	
68	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	1.13	2.26	1.51	0.61	
69	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.63	1.74	0.97	0.47	
70	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.00	1.60	1.14	0.63	
71	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.17	2.18	1.61	0.47	
72	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.64	2.14	0.96	0.48	
73	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.79	1.65	1.10	0.56	
74	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート	V	I 区	0.33	1.54	1.15	0.42	
75	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	1.31	2.13	1.29	0.49	
76	3	旧石器	打削調整削片	チャート		I 区	2.19	1.80	2.02	0.75	
77	3	旧石器	ナイフ型石器	チャート		I 区	0.61	1.82	1.57	0.39	
78	4	不明	刮片	チャート		I 区	0.31	-	-	-	
79	4		使用痕のある刮片	チャート		I 区	1.54	2.70	1.47	0.59	
80	4		刮片	チャート		I 区	0.90	1.59	1.50	0.35	
81	4		刮片	チャート		I 区	0.61	1.60	1.14	0.92	
82	4		刮片	チャート		I 区	2.68	2.56	1.59	1.69	
83	4		刮片	チャート		I 区	2.68	2.28	2.01	0.84	
84	4		刮片	チャート		I 区	5.52	3.09	2.38	0.96	
85	5		石核	チャート		I 区	21.91	3.28	4.38	1.69	
86	5		石核	チャート		I 区	24.57	3.32	4.32	3.19	
87	7		端石	砂岩		I 区	956.00	13.06	11.74	4.53	

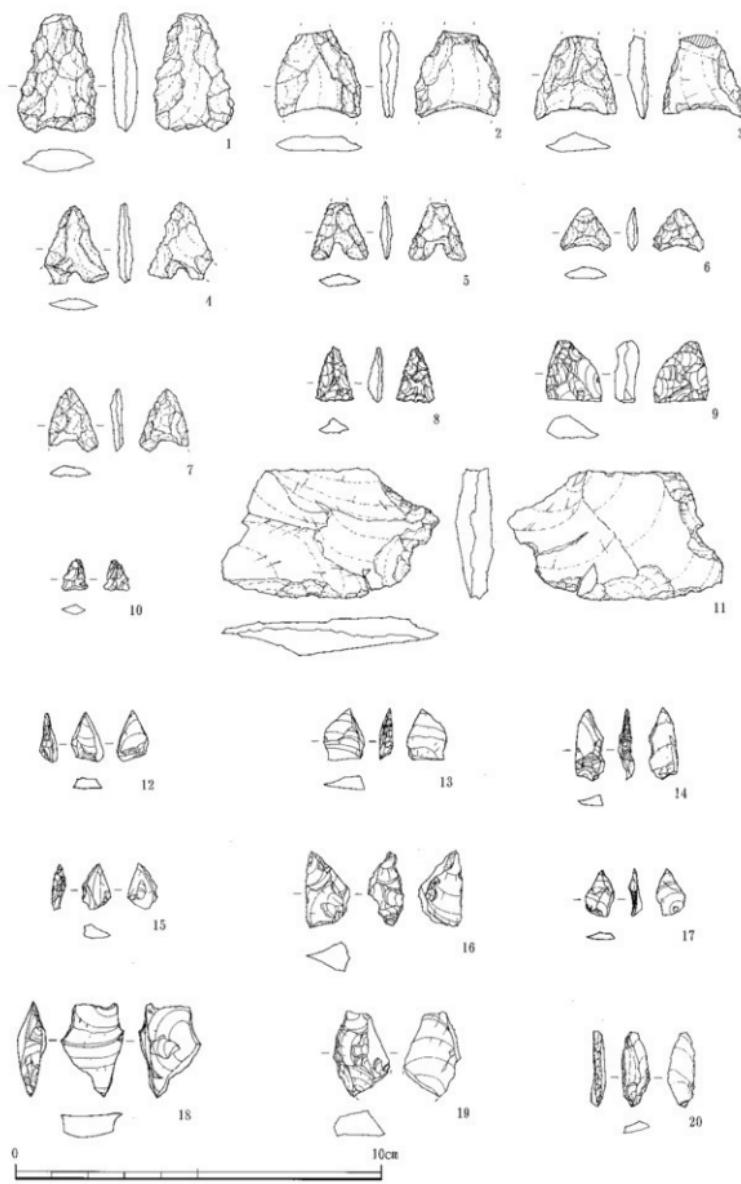


图14 西谷遗址出土遗物①

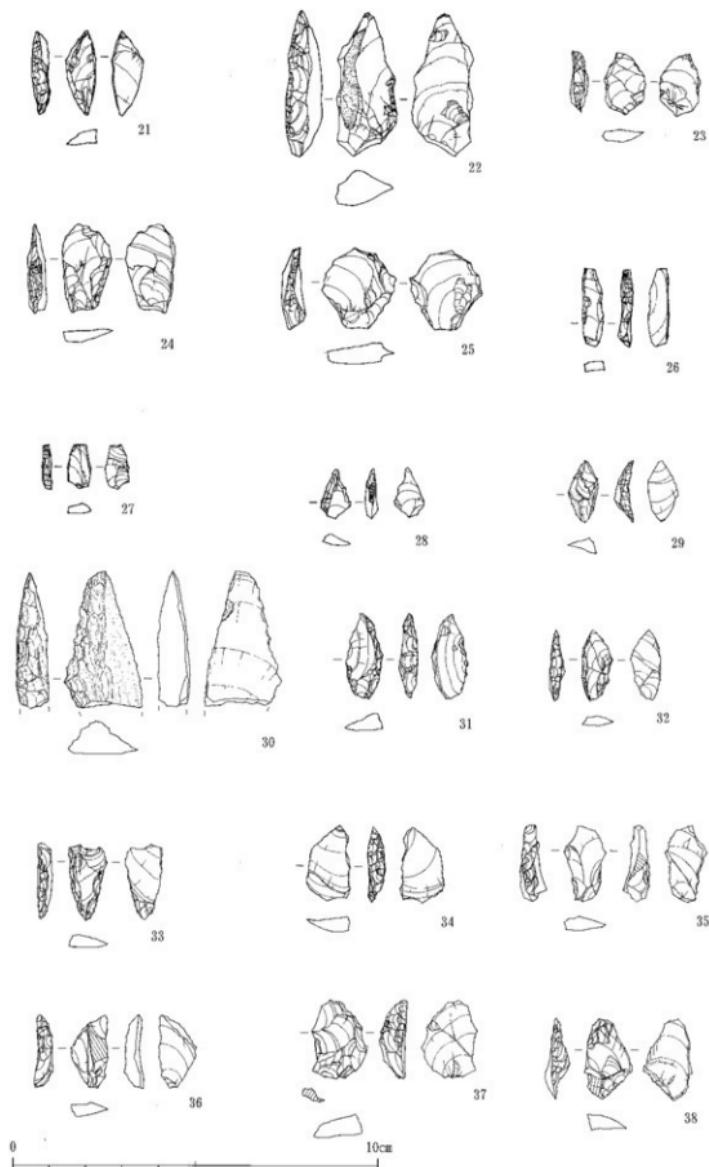


图15 西谷遗址出土遗物②



図16 西谷遺跡出土遺物③

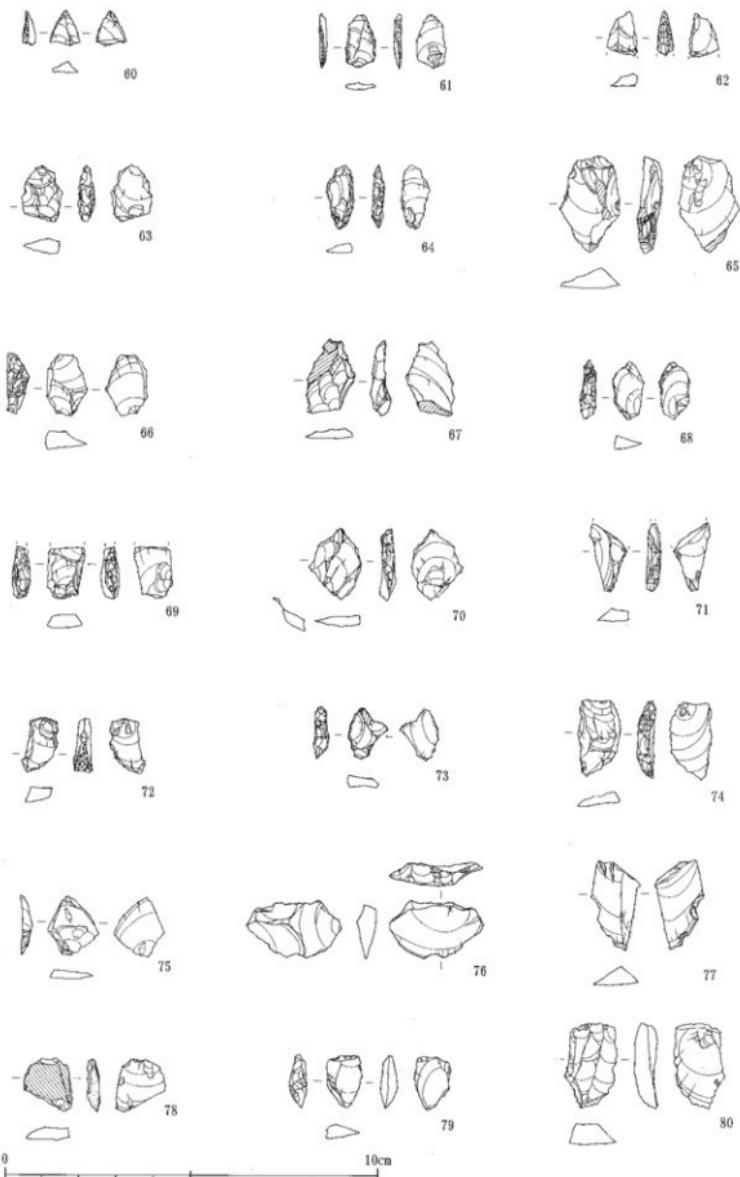


图17 西谷遗址出土遗物④

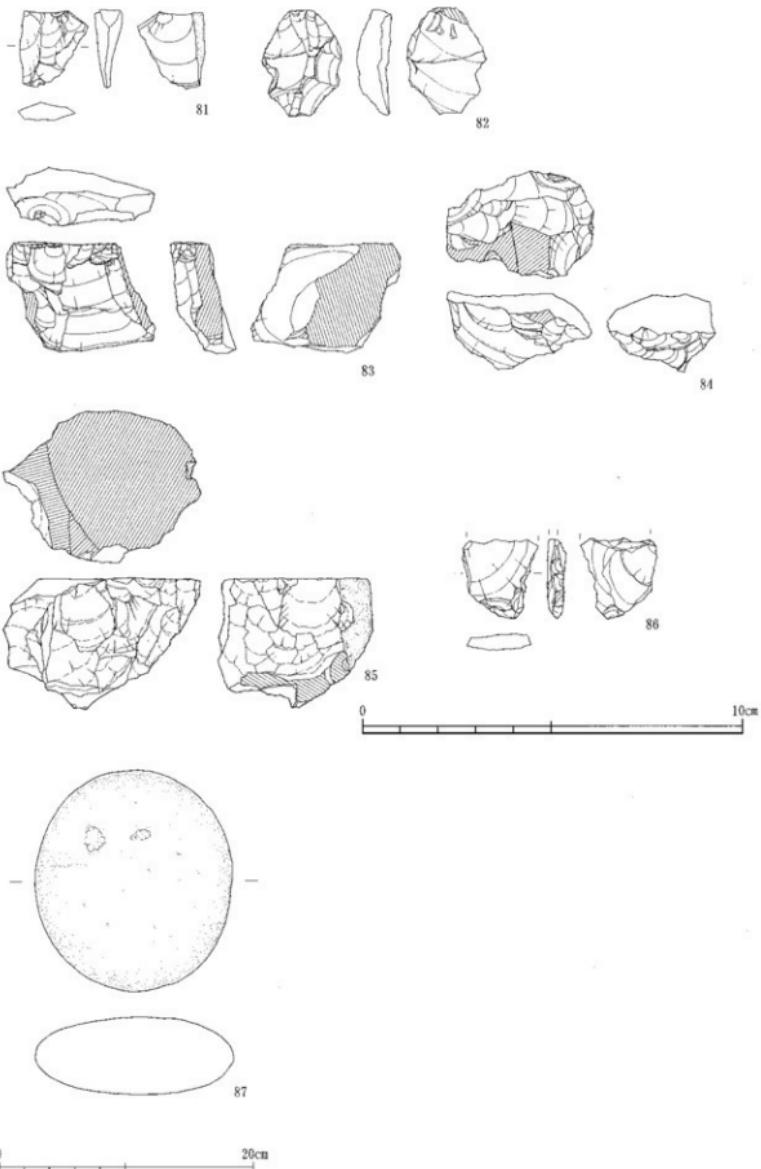


图18 西谷遗跡出土遺物(5)

第VI章 総括

第1節 調査成果

新改西谷遺跡

今回の調査により土佐山田町新改において旧石器時代の遺物が初めて確認された。縄文時代の遺跡には国分川(新改川)水系において近年、数ヶ所確認されている。

西谷遺跡I区を中心に旧石器時代後期のナイフ型石器を始め縄文土器、石鏃、弥生土器、石錐の遺物が出土しているが、特に注目されるのは二次堆積とはいって、I区から多量に出土したナイフ型石器である。石材は殆どがチャートで約60点を数える。大半の石器は当遺跡周辺で産するチャートを使用しており、長さ1.5~2.5cm内外の小型の製品が大多数である点、刃溝し加工が一側縁のみに認められる・側縁加工のナイフ形石器が主体である点などこれらの石器群にはいくつかの共通する特徴があり、剥片の用い方などの指標から、さらに細かい分類が可能であり、石器自体の詳細な分析により石器群の持つ特性が抽出されよう。また出土資料群の中にはナイフ形石器は確認されるものの、それ以外の器種や石器製作に関する石核、剥片などの遺物も少なく、製作工程の全貌を捉えることは困難である。

ナイフ形石器終末期にはナイフ形石器は小型化する。しかし、その現象のみをもって、当遺跡出土資料も同時期だとすることはできない。このような形態のナイフ形石器は、ナイフ形石器出現以降のどの段階にも存在する可能性があることから、資料の十分な分析、検討、位置付けが望まれる。これらの資料の所属時期については今後の研究の蓄積を待たねばならない。

勝楽寺跡

中世の遺構としては、『長宗我部地検帳』に記載されている勝楽寺跡の関連と考えられる遺構が確認されている。建物跡等の復元にはいたらなかったが多数の柱穴、鍛冶遺構が検出された。また出土遺物には土師質土器、瓦質土器、備前焼、白磁、青磁等の遺物が出土している。当資料は新改地区に所在する中世寺院群の今後の研究の一助となろう。

勝楽寺跡に係わる遺物ではないが古代の平瓦、土師器が出土している。瓦関係は西谷観音堂に近接する西谷古窯跡群(8世紀前半頃、窯跡2基、須恵器窯)に係わる遺物ではないかと推定されるが平瓦は時代が8世紀末以降の遺物である。また、土師器も9世紀後半から10世紀初頭の時期と考えられ、周辺部にこの時期の古窯跡の存在が予想されると同時に勝楽寺跡の成立起源の資料ともなる。

参考資料一「長宗我部地検帳」(土州長岡郡植田郷蚊居田村地検帳)

一所式代	下轔 アレ	同	同	同	同	同
一所壱反廿代	出廿八代 同	妙楽寺扣	勝樂寺分	大サウノ谷	一所三代 同	彦八分
一所五代二分	切畠 同	西谷	西谷	イモカ谷	一所壱代一分 下々	同人作
一所四代二分	下々 同	又四郎作	神太郎分	大カイ子	一所壱反三代三分 切畠	大口 分
一所五代	出五代老分半 同	神太郎分	同	大カイ子	一所壱反十代 上ヤシキ	小口
一所式反廿代	出壱反十五代五分 同	勝	同	西谷	一所壱反十代 上ヤシキ	同
一所廿代	切畠 同	大郎扣	同	西谷	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
一所廿五代	詞 同	同人作	同	中ヤシキ	一所廿三代四分 杖ノマ、	同人作
一所廿代	同	善左衛門作	同	上ヤシキ	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
一所廿代	同	中坊作	同	寺中	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
一所廿代	分	分	同	同	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
勝樂寺	勝樂寺	勝樂寺	同	同	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
勝樂寺	勝樂寺	勝樂寺	同	同	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
勝樂寺	勝樂寺	勝樂寺	同	同	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
一所三反	出廿反五代三分半 同	彦八作	彦八作	彦八作	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分
一所八代四分	切畠 サルイサリ	主作	主作	主作	一所廿三代四分 杖ノマ、	彦八分

同し 枝ノマ、

一所廿三代五分 下ヤシキ

一所廿三代五分

一所廿三代五分 下ヤシキ

一所廿三代五分

一所廿反十代 出卅代二分

一所廿反十代 出卅代二分

一所廿反十代

一所廿反十代 出卅代二分

目代彥二郎給

三郎衛門作

国沢三郎衛門給

主作
真島久兵衛給

国沢三郎衛門給

三郎衛門作
北岡忠兵衛給

国沢三郎衛門給

妙楽寺扣
勝樂

同
同

同
同

大郎左衛門作
大郎左衛門作

同し 内八代川クエ下
一所廿反卅代 出卅代二分

一所廿反卅代 出卅代二分

一所廿反卅代 中

山本七衛門給
主作

一所廿反卅代 中

勝樂寺跡図版



遺跡全景



I 区 遺構検出状況



G1 完掘状況



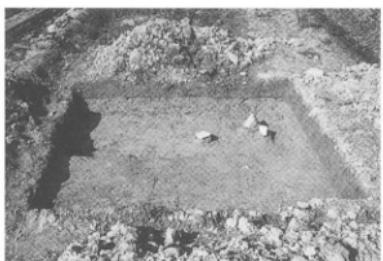
I 区 遺構検出状況



G2 完掘状況



I 区 遺構検出状況



G3 完掘状況



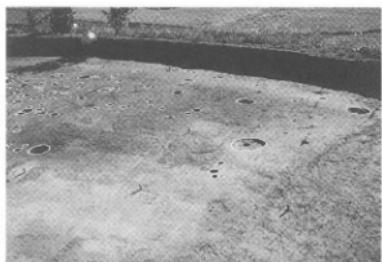
I 区 遺構検出状況



I 区 遺構完掘状況



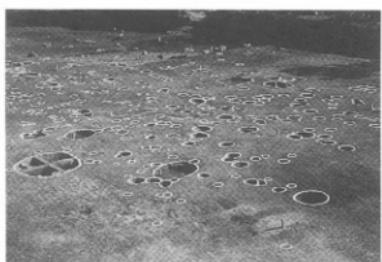
土坑1 遺物出土状況



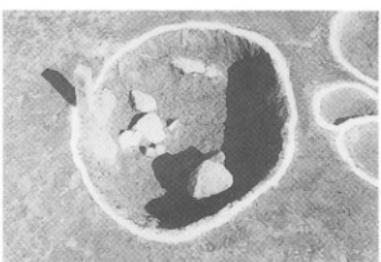
I 区 遺構完掘状況



遺物出土状況



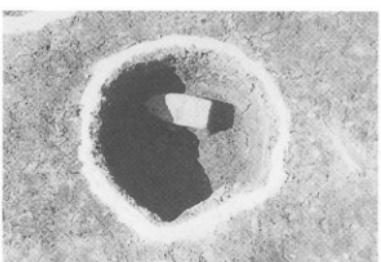
I 区 遺構完掘状況



土坑1 完掘状況



I 区 南壁セクション



P42 出土石製品遺物出土状況



土坑2 発掘状況



II区 遺構完掘状況



II区 調査区遺構完掘状況



II区 遺構完掘状況



II区 調査区遺構完掘状況



II区 トレンチ



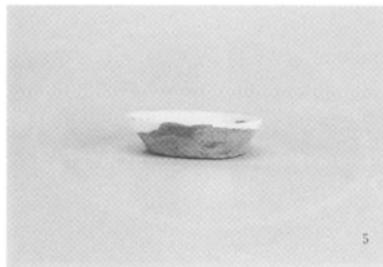
II区 東壁セクション



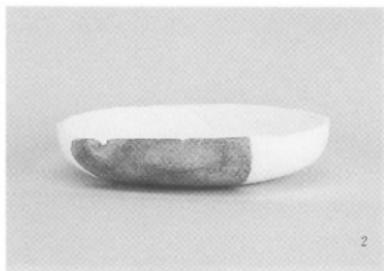
II区 トレンチ内土坑断面



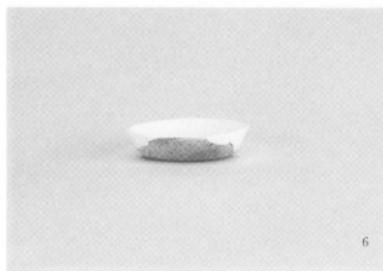
1



5



2



6



3



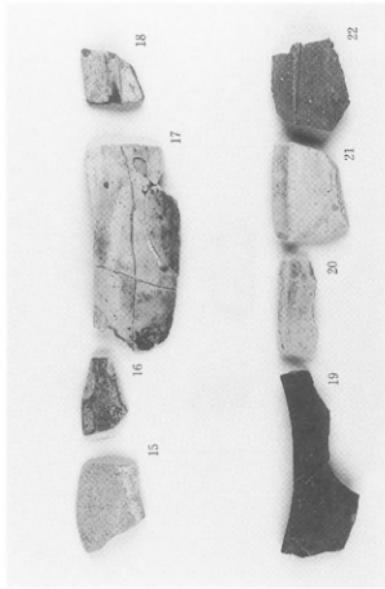
7

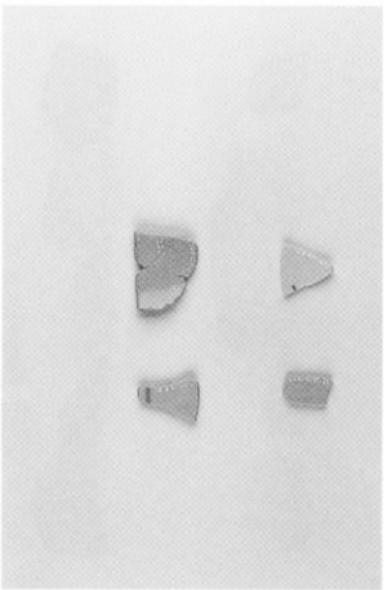
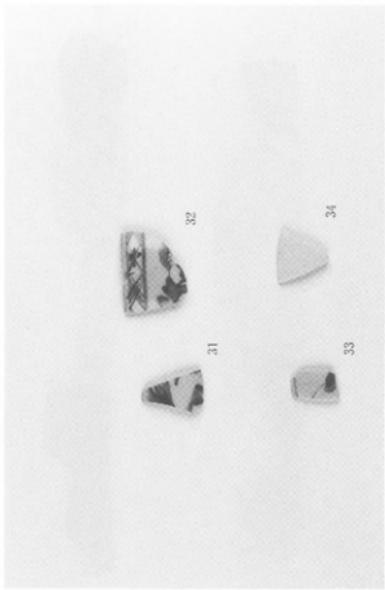
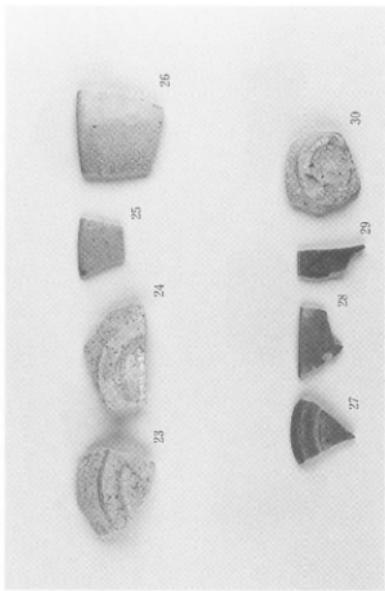


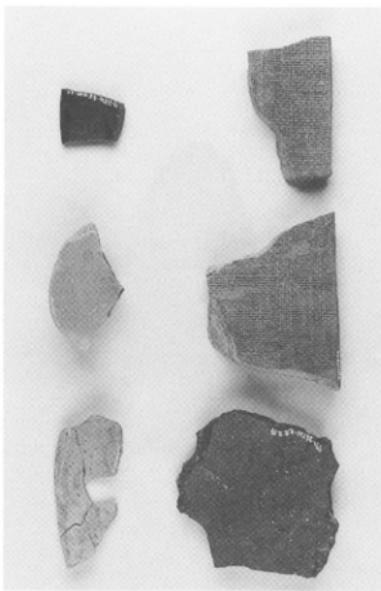
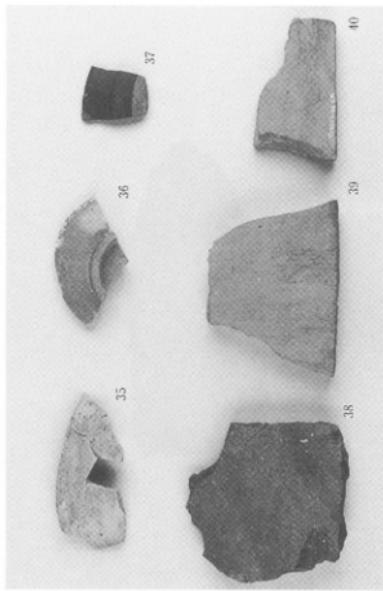
4



8



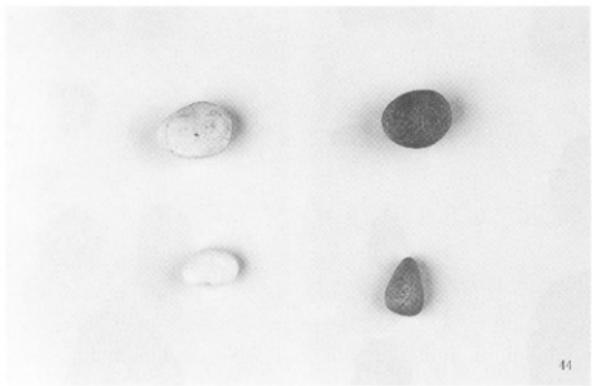




PL-8



43



44

西谷遺跡図版



遺跡全景



II区 発掘状況



I区 遺構検出状況



II区 発掘状況



I区 遺構完掘状況



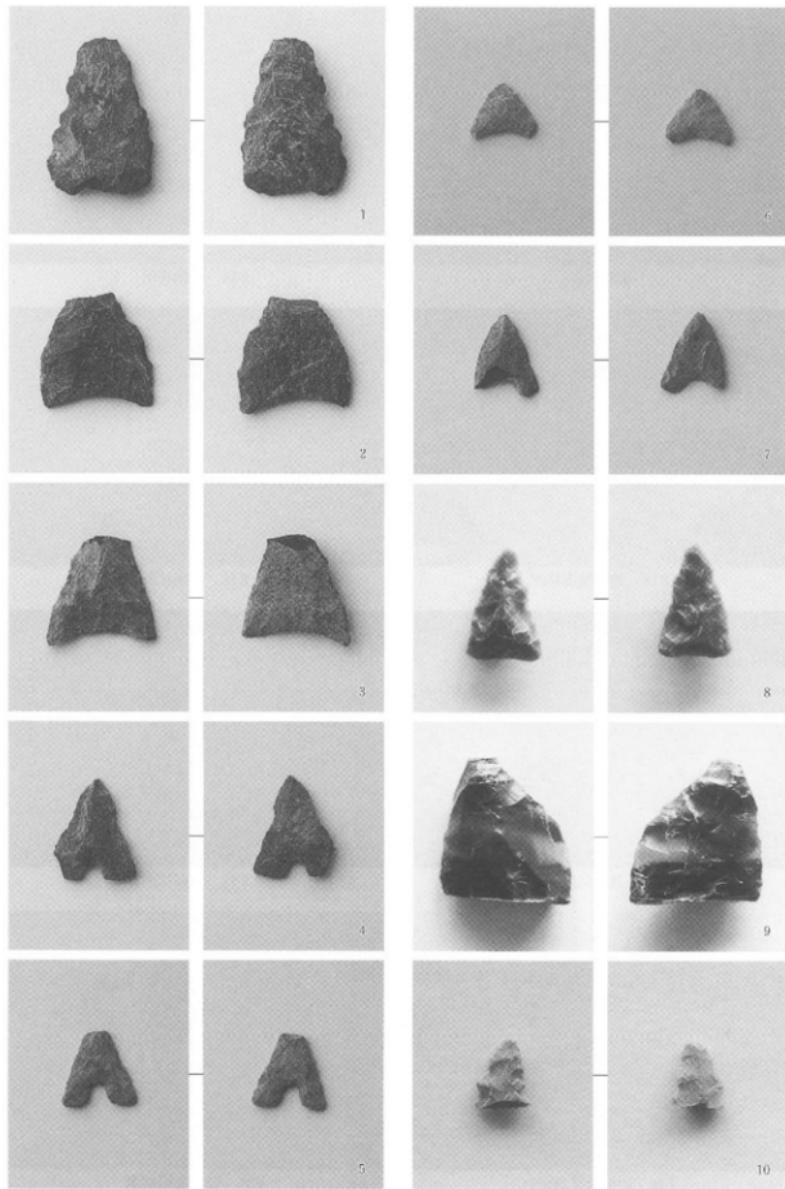
II区 発掘状況

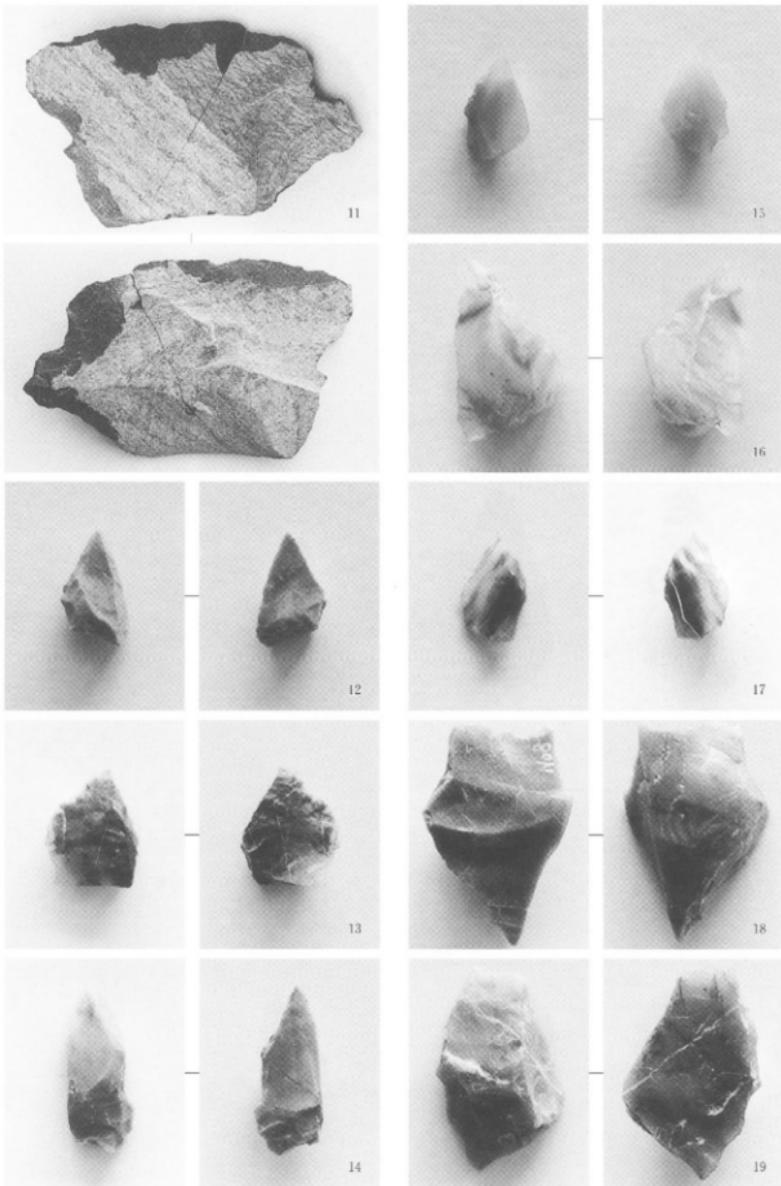


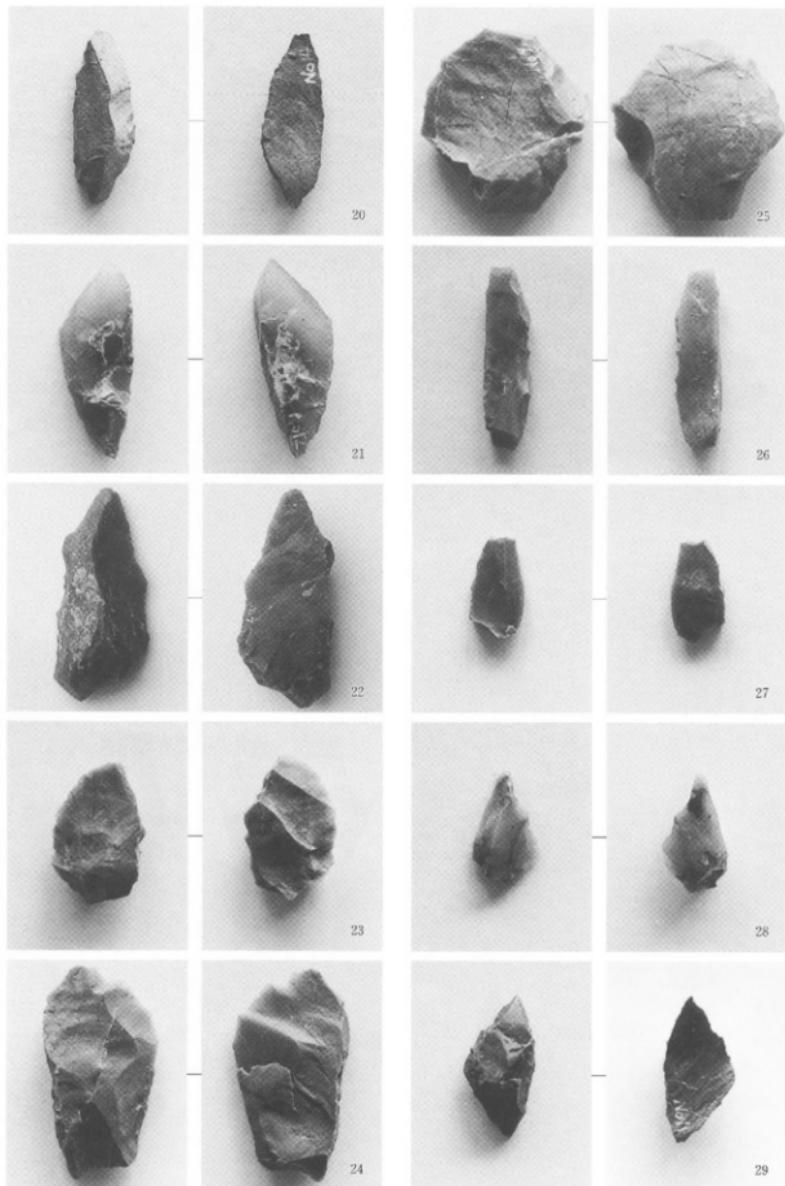
I区 南壁セクション

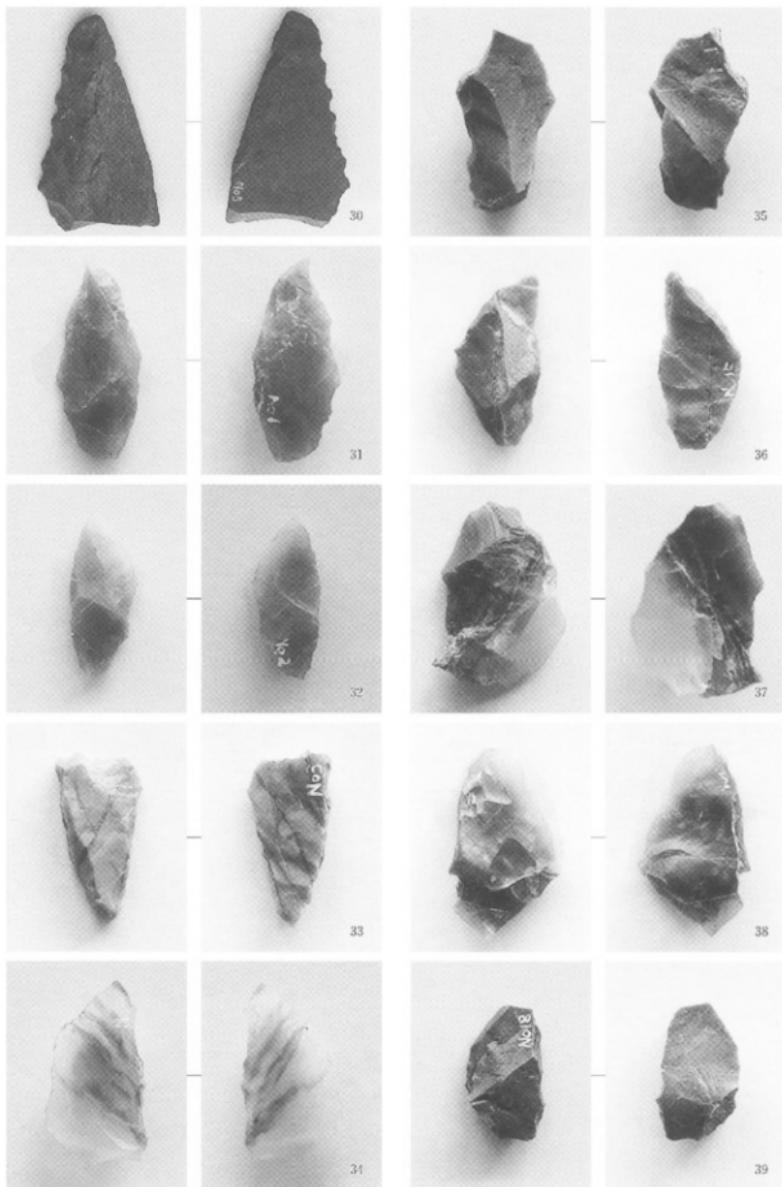


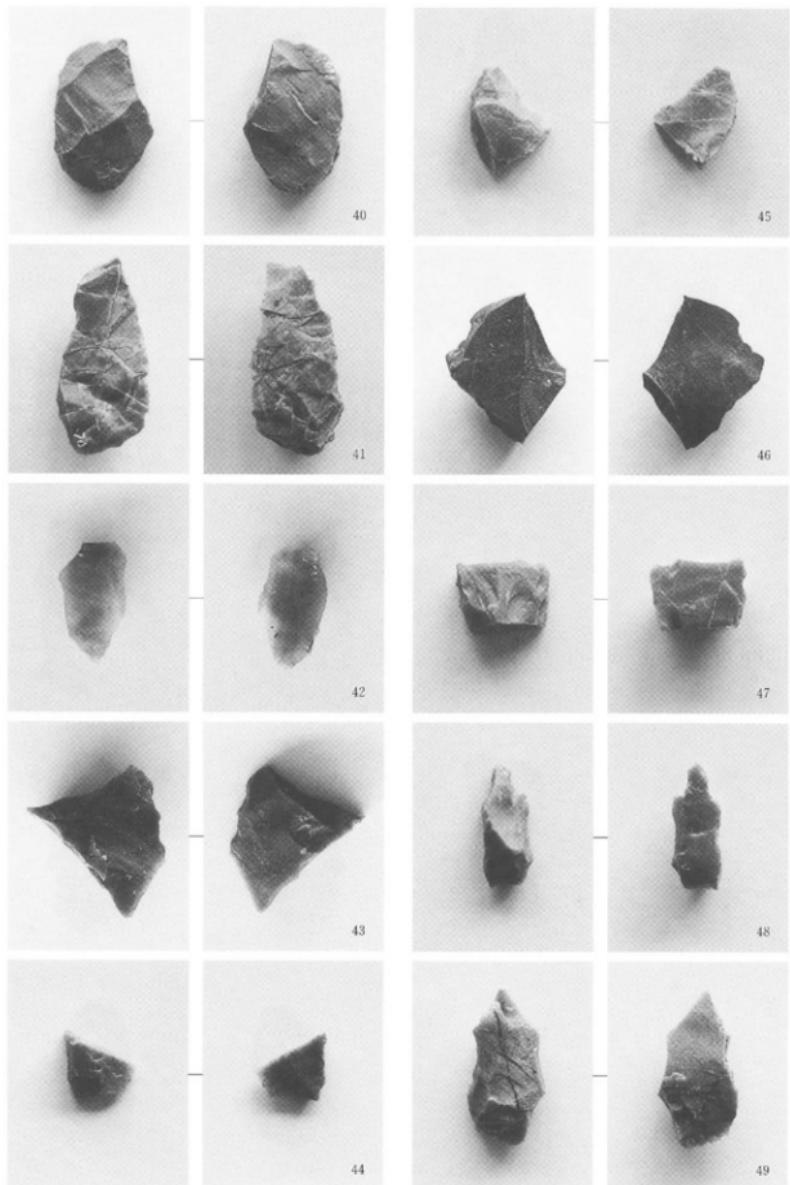
II区 遺構完掘状況

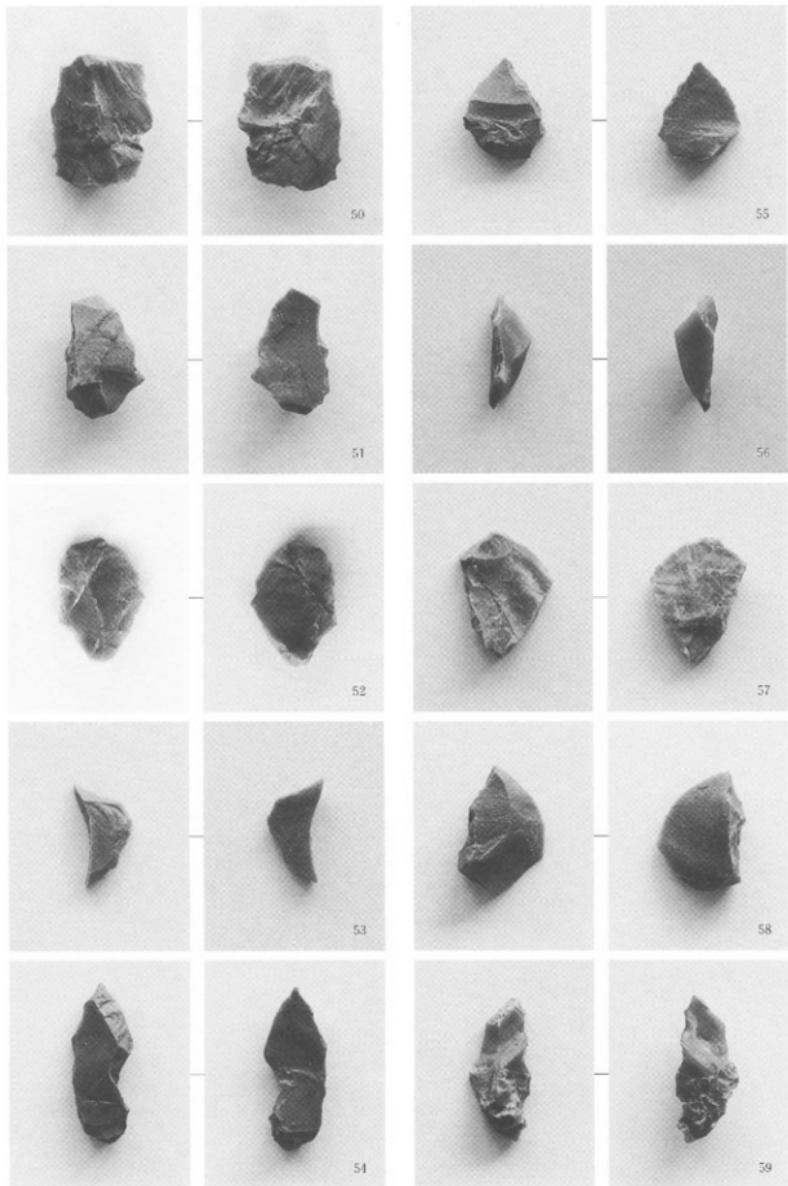


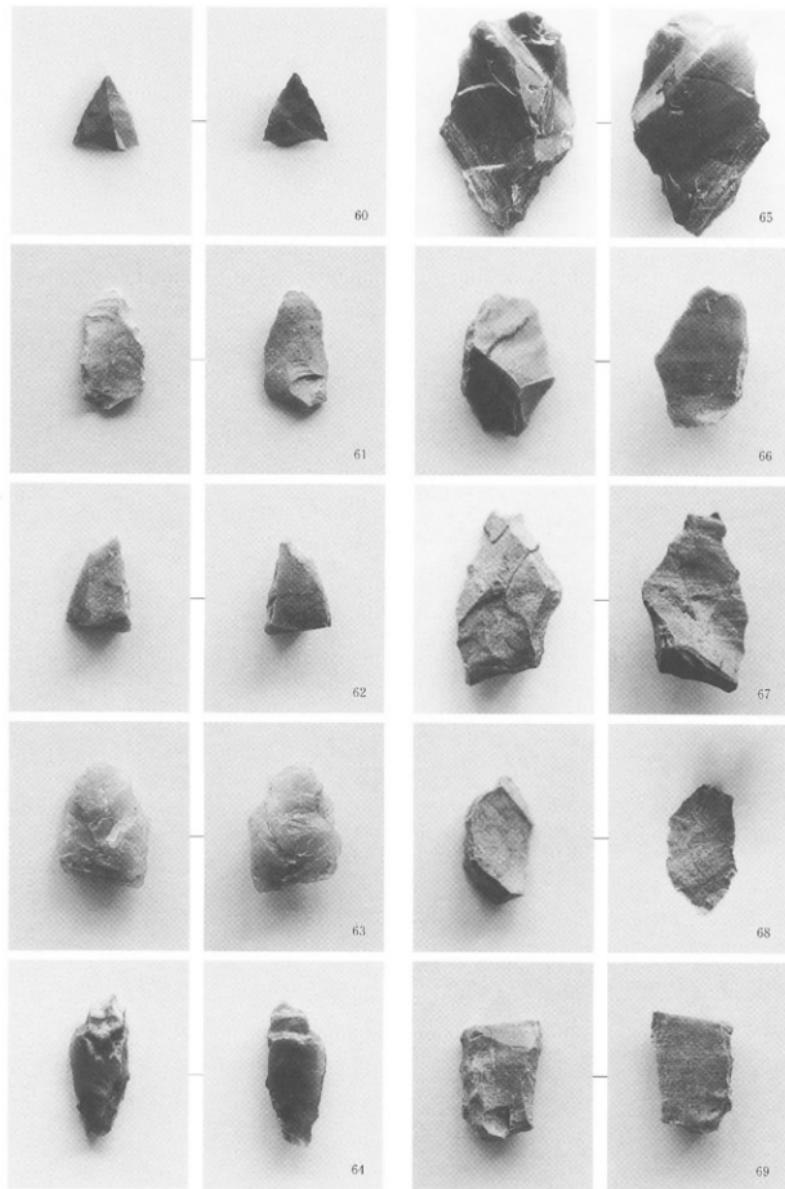


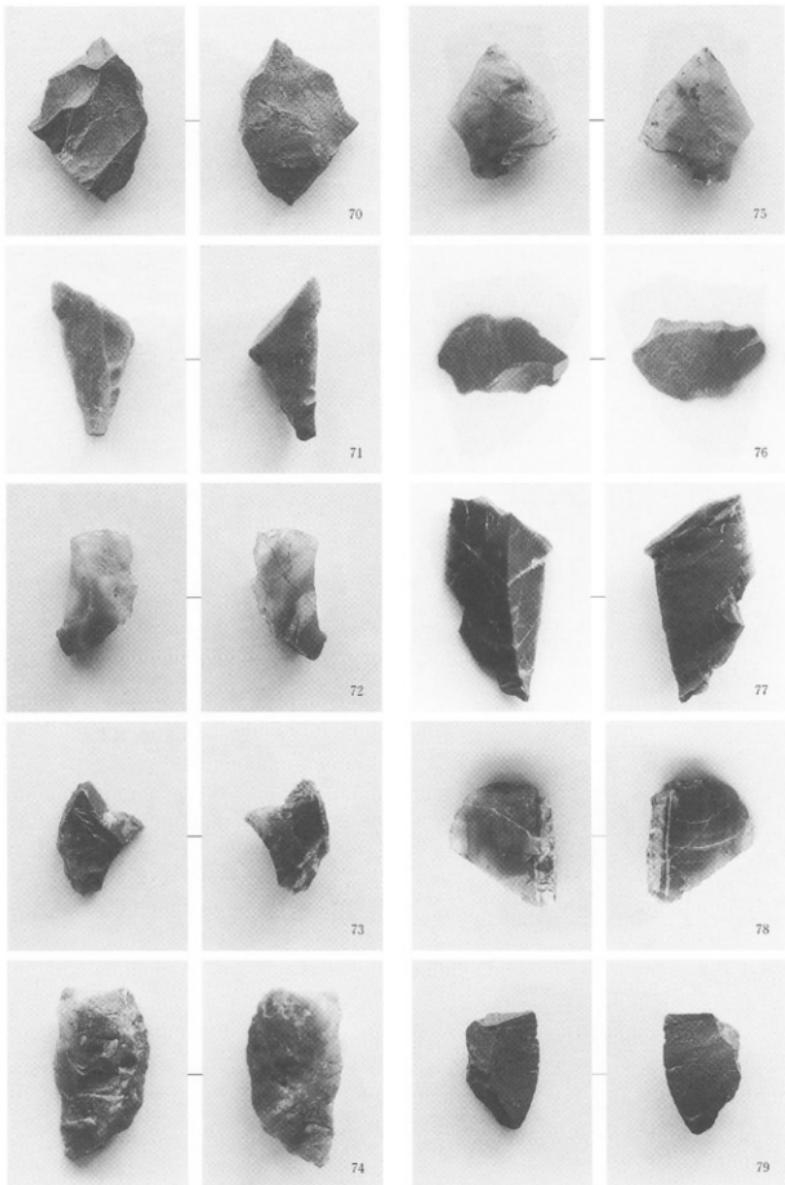


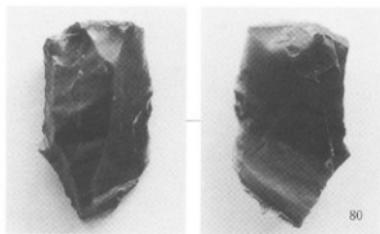








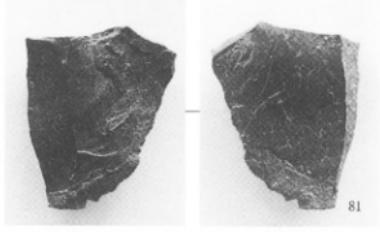




80



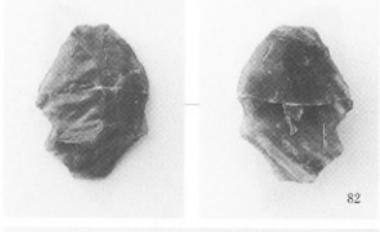
84



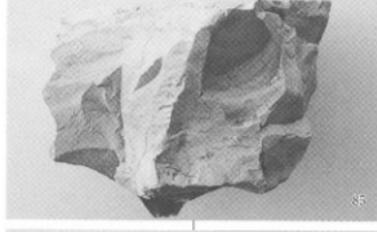
81



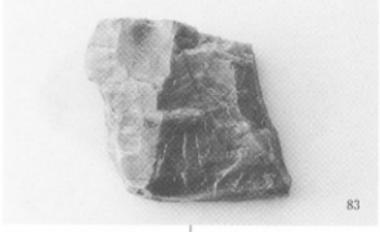
85



82



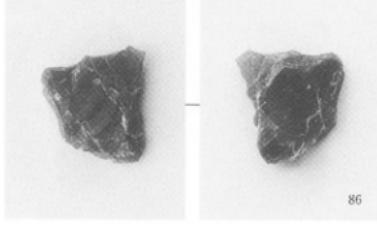
86



83



87



88



87



報告書抄録

ふりがな	しん かい にし たに い せき しょ う らく じ あと							
書名	新改西谷遺跡・勝楽寺跡							
副書名	新改中部地区県営圃場整備事業に伴う発掘調査報告書							
卷次	I							
シリーズ	土佐山田町埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ番号	第29集							
編著者名	中山泰弘							
編集機関	土佐山田町教育委員会							
所在地	〒782-0017 高知県香美郡土佐山田町岩積365-1 TEL(0887)53-3111							
発行年月日	西暦2002年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡	所在地	市町村	遺跡番号	。	。	。	。	。
新改西谷遺跡 ・勝楽寺跡	高知県香美郡 土佐山田町 新改字西谷	393231	西谷遺跡 190197 勝楽寺跡 190045	33° 37' 625" 190045	133° 40' 593" 。	試掘調査 19981001 19981203 発掘調査1次 19981207 19990219	660m ²	新改中部地区 県営圃場整備 事業に伴う 発掘調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な造構	主な遺物	特記事項			
新改西谷遺跡 ・勝楽寺跡	集落、生産、 寺院跡	旧石器・繩文・弥生・ 古代・中世	溝跡、柱穴、土坑	ナイフ型石器、剥片、 繩文土器、石鏡、叩石、 須恵器、土師質土器、瓦器、瓦質土器、布目瓦、白磁、 青磁、染付、備前焼、瀬戸焼		旧石器時代のナイフ型石器が多量に出土		

新改西谷遺跡・勝楽寺跡

新改中部地区県営圃場整備に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2002年3月31日

編集・発行 高知県土佐山田町教育委員会
高知県香美郡土佐山田町岩積365-1
電話 (0887) 53-3111 (代)

印刷 川北印刷株式会社